

様式第3号(第9条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和5(2023)年度第2回みよし市教育振興基本計画推進委員会		
開催日時	令和6(2024)年2月26日(月) 午後2時から午後4時30分まで		
開催場所	みよし市役所 6階 601・602会議室		
出席者	<p>委員長：大村 恵 副委員長：春山 士朗 委員：渡辺 桜 大地由美子 平尾 章芳 宮田 安弘 山田 郁子 成瀬 優香 林 晴子 宮崎 務 富樫佐智子 鈴木 康之 鈴木 睦子 内田 弥生 近藤 憲司</p> <p>事務局：増岡教育長 富田教育部長 新美教育部参事 木戸教育部次長兼学校教育課長 鈴木教育部副参事兼学校教育課主幹 林スポーツ課長 橋本資料館長 伊藤給食センター所長 二子石生涯学習課長 大成学校教育課主幹 長谷川学校教育課主幹 酒井学校教育課主幹 多治見学校教育課主幹 金丸学校教育課副主幹 (計29名)</p>		
次回開催予定日	令和6(2024)年5月		
問合せ先	みよし市教育委員会学校教育課 電話：0561-32-8026 ファックス：0561-34-4379 メール：gakko@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録全文 ・議事録要約 	要約した理由	
審議経過			
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	<p>本日は、ご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今から「第2回 みよし市教育振興基本計画推進委員会」を始めさせていただきます。初めに礼の交換をします。みなさま御起立ください。</p> <p>一同 礼 よろしく願いいたします。御着席ください。</p> <p>本日の会議ですが、黒笹小学校のPTA会長の松本様から欠席の連絡をいただいておりますのでご承知をください。</p> <p>また、この会議につきましては、会議録を取らせていただく関係上、ご発言される際は、お手元の機器のマイク電源をオン</p>		

	<p>にさせていただいてから話していただきますよう、ご協力をよろしく申し上げます。</p>
増岡教育長	<p>それでは、本日の会議でお配りした要項に沿って進めさせていただきます。</p> <p>はじめに、主催者を代表してみよし市教育委員会教育長、増岡潤一郎よりご挨拶を申し上げます。</p> <p>教育長 挨拶</p>
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	<p>ここからにつきましては、みよし市教育振興基本計画推進委員会設置要綱によりまして、委員長であります大村先生に進行をお願いしたいと思います。</p>
大村委員長	<p>大村でございます。よろしくお願いいいたします。</p> <p>今、教育長からもお話がありましたように、学校改革、教育改革が進んでいるという話でした。</p> <p>昨年の4月1日から子ども基本法が施行されまして、12月には子ども大綱、あるいはその居場所づくりとか、様々な子ども、子育てに関わる施策が発表されてきて、おそらく来年度からそれが市町村でも実施の運びになるのかなと思っています。そういった意味では学校、それから家庭、地域、社会、それぞれのところで子どもをどう育てていくのか。大人はそれにどう関わっていくのかということが、皆で議論でき、話せる、そういった状況になっていくのかなというふうに思います。今日の会議の中で、ぜひ皆さんからのお話をいただいて、来年の活動に生かしていく。そんな会議になるといいと思っていますので、よろしくご協力お願いいいたします。</p> <p>それでは、次第に沿って進めていきます。皆さんよろしくお願いいいたします。</p> <p>ぜひ皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。よろしくお願いいいたします。</p>
大村委員長	<p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず、みよし市教育振興基本計画の概略です。それでは事務局からお願いいいたします。</p>
事務局・多治見	<p>それではお願いいいたします。</p> <p>本計画の概略の確認と、第1回教育振興基本計画推進委員会にて、委員の皆様からいただいたご意見や、今年度行った調査等から、今後みよし市で取り組むべき課題等についてご説明いたします。</p> <p>本計画の概略につきましては、ここに示させていただいている通りです。学ぶ楽しさで人と人をつなぐことを基本理念とし、目指す人間像の育成のため、計画、実施をしていきます。本委員会の役割は、教育プランの進捗状況を確認いただき、ご意見、ご助言をいただきながら、PDCAのサイクルを確立することになります。</p> <p>本年度は、令和3年度の間見直し後3年次となります。来年度と再来年度の2年間をかけて、次の教育プラン策定に向け</p>

て検討を進めて参ります。

本日は、令和8年度の策定に向けて、本市の20の作戦の現状と、見直すべき内容について、様々な視点からご説明いたします。スライドもしくはお手元の資料をご覧いただければと思います。

まず、6月に行いました第1回教育振興基本計画推進委員会について振り返りたいと思います。

令和4年度の市民、保護者、教員、児童生徒アンケートの結果から、大きく二つの課題が見えてきましたので、テーマを①周知②家庭支援に絞り、グループに分かれてご協議いただきました。

まず周知について。

9割のこどもたちがみよし市を好きと言っている、その根拠を足がかりにみよし市の魅力を周知できたらよいのではないか。ただ、こどもたちだけが好きでは困るので、親もみよし市で子育てしたいと思うために、園や学校のホームページにQ&A方式や二次元コードを取り入れて発信していくとよいのではないか。あるいは悩みを抱える人については、なかなか外に足が向かない部分もあると思うので、インスタグラムとかSNSとかを上手に使いながらやっていくとよいのではないかという意見をいただいています。

次に家庭を支えていくということに関して。

家庭に入っていく難しさが学校、地域ともにあるが、例えば中学校で行っているコミュニティ・スクールの活動を幼稚園や保育園とも連携して行うなど、園と小中学校が繋がることで、家庭支援のきっかけができないだろうか。また、ボランティアでの読み聞かせで紹介した本をこどもが家に帰って、そのよさを伝え、お母さんがその本を家でも読んであげたというエピソードがあり、ボランティアの取組が家庭を支えるきっかけにすることができるのではないか。地域でのお祭りなどがしっかりできているコミュニティがあると、不登校も少ないデータがあるようで、地域で子育て世代の親と繋がるとともに、こどもたちの前向きな心を育てるよいチャンスがあるのではないか。共働き世代が多くなっていることから、地域コーディネーターの役割は大きい。三好中学校の取組でもある通り、できるところから進めていくことが効果的であること。今は放課後等デイサービスの数が増えている、こどもたちの自立に繋がるようなカリキュラムを考えていたり、子育てネットワークは地域にたくさんいて研修を受けて力量アップしたりしているため、市との連携を強化できるとよいのではないか。個別の支援が必要な子や外国にルーツがある子に対しては、スポーツとか音楽などは共通していて活躍できる分野であるため、そう環境や機会の整備は、生涯に渡った支援に繋がるのではないか。

最後に課題として、保護者からすると、園や学校の先生方が忙しい様子が伝わってくる部分もあり、こんな程度の悩み

を相談していいものかと、躊躇することもあり、悩みを抱え込んでしまうこともあるため、いかにささいなことでも相談してもらえよう園や学校が環境を整えられるかがポイントであるというご意見もいただいています。

次に、教育委員会の点検評価についてです。この点検評価は、令和4年度の実績取り組みに対しての評価となります。

名古屋大学の石井先生からは、学校教育分野を中心に評価していただきました。よい評価をいただいたものは、白丸課題点や改善の視野を与えていただいたものは、黒丸で載せてあります。

相談の受け皿の確保、相談体制の充実に向けて、専門相談員を配置拡充したこと。話し合い活動の普及に努めている教職員への敬意。きめ細やかな指導のために、少人数学級や少人数指導を検証していること。目まぐるしく変化する時代に対応するため、全小中学校の体育館に空調整備を進めていること。個別の支援について、個別の指導計画を100%活用することについて評価していただきました。

改善点としては、作戦PlusOneのみんなで育てるみよしっ子の周知啓発に関しては、作戦3、4とも関わってくることから、今後強く意識して欲しいこと。ICT整備については、相談アプリの導入や、放課後児童クラブのWi-Fi環境等の整備も検討していくとよいこと。作戦8のこどもの心を育てる教育の部分では、情報モラル教育の推進と成果指標とのずれを是正することを挙げていただきました。こども基本法が制定されたことを受け、こどもの件について、こどもと大人がともに学ぶ機会も設けて欲しいということでした。

続きまして、愛知教育大学の中山先生からは、主に生涯学習分野について点検評価をいただきました。

評価いただいたこととして、令和5年度の計画に、サンライズ以外の施設において講座が開催されること。総合型地域スポーツクラブで活動した人数が増加しており、今後のさらなる活動の発展が期待できること。資料館在り方検討会において、歴史民俗資料館の発展に向け、あるべき姿、既存機能の維持と拡充、連携の促進の3項目に分けて検討されていることは、方向性としていずれも重要な部分であること。三好中学校の実践をモデルとしながら、市内中学校への地域コーディネーターの配置を実施することができたことが挙げられました。

今後に向けて、市民ニーズを具体的に掴むには、市民との対話が重視されることから、社会教育主事有資格者の配置の検討や資料館在り方検討会においても、積極的な共同学習の営みとして検討が進められること。作戦20においては、市内コーディネーター同士の実践共有と研修による力量形成が鍵になってくることをご示唆いただいております。

お二人の先生からいただいた意見を踏まえて、20の作戦PlusOneに関わるご意見は、担当課の方で役立てていくことに

<p>大村委員長</p>	<p>なっております。 以上になります。</p> <p>はい。 ありがとうございました。 ただいまご説明いただきましたけれども、その内容についてご質問、あるいは確認したいことがありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。 よろしいでしょうか。 よろしければ、後半のご説明に入りたいと思います。</p>
<p>事務局・多治見</p>	<p>これからは本年度に調査したものから見えてきた傾向や課題について説明いたします。</p> <p>作戦4、学校以外で相談できる公的機関を知っている保護者の割合についてです。これは本年度ではなく、令和3年度と令和4年度の比較にはなりますが、専門相談員の時間数と人数を拡大したことによって、相談件数は290件増加しています。同じ家庭の支援回数が、ただ多くなっただけという部分もあるかもしれませんが、より多くの家庭を支援するという意味では、成果と言ってもよいかもしれません。相談内容に目を向けますと、不登校、いじめ、教職員といった学校関係の相談というよりは、家庭生活やこどもの発達関係など、子育てに関する悩みが増加しているように感じます。</p> <p>続いて作戦5についてです。話し合う活動を通じて、自分の考えを深め広げている。授業で学び合う活動の充実を目指して、学校では取り組んでいます。小学校6年生の割合は減少しています。人と関わる経験、機会が減ってきていることが影響しているのかもしれませんが。引き続き授業を始め、学校のあらゆる教育活動において協働する楽しさや、お互いを認め合えるよさを実感させていきたいなと思います。また、コミュニケーションや仲間と折り合いをつける力も身につけさせる必要があるのではないかと感じています。</p> <p>続いて作戦6-2についてです。1人1台タブレットの活用状況です。ご覧の通り、1人1台タブレットが支給されて、3年が経ちましたが、思うように活用が進んでいるとは言えません。国でも、操作に慣れるためのファーストGIGAスクールの段階から、子どもたち一人一人に合った個別最適な学びの実現や、友達同士をつなぐツールとして活用する、ネクストGIGAスクールにシフトチェンジしていく方針を出しています。今後もなぜタブレットの活用が必要なのかといった視点で、教員の研修も行っていければと思っております。</p> <p>作戦8についてです。人の役に立つ人間になりたい割合ですが、ご覧の通り、小学生の割合が減少しています。人の役に立った経験であったり、集団において自分の役割を全うすることで、多くの立場の人から認められたりする機会が減ってきていることが要因にあるのかなと感じます。本年度の研究</p>

発表校であります、北部小学校では、「I love me」という実践を行っていました。このような、自分を好きになるといったよい取組や実践を市内各校に共有し、自己肯定感を高めていく活動を意識していきたいと感じます。

続きまして、作戦9です。全国体力運動能力調査の体力テストの合計点ですが、ご覧の通り、中学生において数値の減少が見られます。部活動の朝練の廃止や、土日の部活動の時間の制限など、部活動の縮小や運動する機会の減少が影響しているのではないかと思います。小中学生、保護者、教員の思いをもとに、今後の部活動のあり方を検討する必要があるかなと感じています。令和8年度の策定の見直しに向けて、この後のグループ協議においても話題にさせていただけたらと思います。

続きまして、令和8年度の策定に向けて、一つ意識していくべきこととして、令和5年6月16日に閣議決定された国の第4期教育振興基本計画の内容があります。本日の協議していただきたい内容ではございませんが、来年度以降どの程度取り入れていくべきか検討していけるとよいと思っています。本日、簡単に説明いたしますと、主に二つのコンセプトが挙げられています。

一つ目が、持続可能な社会の創り手の育成ということで、主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定、解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材を育成していけるとよいということ。

二つ目が日本社会に根差したウェルビーイングの向上が挙げられており、幸せや豊かさがキーワードになっています。ここで聞き慣れないウェルビーイングという言葉ですが、身体的、精神的、社会的に良い状態。多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じる。地域社会が幸せや豊かさを感じられるよい状態のことを指しています。自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と人との繋がりや利他性、社会的貢献意識などの協調的な要素に分けられ、両者を調和的一体的に育むことが重要であると言われていています。特に教育という側面でいえば、このスライドにあるように、これまでも話題にしてきました通り、不登校やいじめ、貧困など、子供たちが抱える困難が多様化している中、地域における学びを通して人々の繋がりや関わりを作り出すことで、自己肯定感を高めていくことが必要ではないかと思っています。これらを達成するために、国の教育振興基本計画では、五つの基本的な方針を示しています。この本市の20の作戦と照らし合わせながら、簡単に見ていきたいと思っています。

1、グローバル化する社会の持続的な発展に向けて、学び続ける人材の育成については、本市の作戦でいうと作戦5、7、9、14、15、16が関わってくるのかなと言えます。外国籍の子供たちも今後増えてくる中、第1回教育振興基本計画推進委員会にて、スポーツや音楽での繋がりという部分も出てきました

	<p>が、みよし市もグローバルな視点で必要な教育のあり方を考えていかなければならないと考えます。</p> <p>2、誰1人取り残されず、すべての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進については、本市の作戦でいうと、作戦1、2、3、4、8、10、13、20が関わってくるといえます。幼少期の段階から、豊かな心を育てていくことと、そのために家庭を支援できるような地域の連携が欠かせないと感じます。</p> <p>3、地域や家庭とともに学び学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進については、本市の作戦でいうと、作戦7、8、9、10、13、14、15、16、20が関わってくるといえます。主に生涯学習という視点での取組が重要であるといえます。地域の教育力向上はもちろん、家庭、地域、学校の連携が鍵になってきます。</p> <p>4、教育デジタルトランスフォーメーション、DXの推進については、本市の作戦でいうと作戦6、10、13、14、15、20が関わってくるといえます。多様な教育ニーズへの対応、経済的状況、地理的条件に左右されない質の高い学びの確保のため、教育DX化は欠かせないものになってくると考えます。インクルーシブの教育の観点からも苦手な部分は、ICTで補えるようなみよし市でありたいと思います。</p> <p>最後5番目です。計画の実効性確保のための基盤整備、対話については、本市の作戦でいうと作戦10、11、12、13、14、15、20が関わってくるといえます。学識経験者による意見として、愛知教育大学の中山先生からの意見にもあったように、市民ニーズを具体的に掴むためには、市民との対話が重視されることから、整備を進めていくにあたって、様々な立場にとって必要なものになるような計画にしていく必要があると考えます。また、コミュニティ・スクールにおいても、地域によって実情は違えど、同じ市内の取組として、地域コーディネーター同士の実践共有する場など、対話する機会は大事にしていきたいと感じます。</p> <p>最後に、本市が目指す教育の学校教育という面から言いますと、先ほどの対話、あるいはウェルビーイングという観点から、これからの学校はこどもがつくるこども中心の学校でなければならないと感じます。これまで大人や先生たちがこどもたちのためにと考えていろいろと環境を整備してきた背景があると思いますが、どこまでこどもの意見を聞いて対話を通して決めていたかどうか。本当にこどもが幸せと感じているかどうか、この点については再度意識して計画を立てていかなければならないと思っています。以上になります。</p>
大村委員長	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>それで今のご説明についてですね、質問、あるいは確認したいことはございますでしょうか。</p> <p>よろしければ、今のご説明を受けてですね。各課の20の作戦プラスワンの進捗状況。それから、令和8年度の策定の見通</p>

<p>事務局・多治見</p>	<p>し、それから体系別全施策の進捗状況と次年度の見通しについてはお配りいただいている資料2と3にまとめられているということです。</p> <p>それでは、この後の協議の進め方について事務局説明をお願いします。</p> <p>それでは第2回の協議テーマといたしましては、次代を担う子どもたちの自己肯定感を高め、ウェルビーイングを感じるために家庭、地域、学校ができることは、20の作戦PlusOneの見直し・検討とさせていただきます。キーワードは自己肯定感、ウェルビーイングということになるのですが、これにとらわれず、資料2にまとめてあります、20の作戦の進捗状況とか、令和8年度に向けての案も記載していますので、この案でいいのかっていう部分で触れていただいて、協議していただいても構いません。</p> <p>要項のところには、グループのメンバーも示させていただいております。各課の担当もグループ協議に入りますので、ご質問などもグループ内で行っていただければと思います。</p> <p>また、学校教育課の指導主事がつきますので、話し合いの取り回し等、必要があればお申し付けください。各グループについて確認させていただきます。こちらの画面で示させていただいた通り、Aグループが子育て支援の部分を中心に協議ください。Bグループが学校教育の部分を中心に、Cグループは、生涯学習、社会教育、地域連携の部分を中心に協議ください。まずは今回のプレゼン内容かでもいいですし、それ以外の視点でもよいですが、グループ内での課題や改善案を挙げていただきたいと思います。</p> <p>その後、発表をさせていただいて、そのあと、他のグループの課題に対して、自分たちのグループではどう連携し、課題解決できそうかについて再度話し合っていただくような流れをとりたいと思っております。</p> <p>それでは協議内容を記録に残す関係で、小グループのところではICレコーダーもついて録音させていただきますので、発言者はICレコーダーをお持ちになって、発言いただけるとありがたいです。それではよろしく願いいたします。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>ありがとうございました。進め方はご理解いただきましたでしょうか。本日の協議はグループ協議を中心に行うということで、グループ協議は前半と後半に分かれて前半は、それぞれのグループごとのテーマですね。Aグループは子育て支援、Bグループは学校教育ですね。Cグループは生涯学習社会教育、地域連携について、進捗状況もまず議論していただいて、それぞれのグループの協議の中身を全体に共有し、後半はそれぞれのテーマに限定せずに、他のグループの発表もお聞きした上で、自由に協議をしていただくと、こういう形。だから前半はそれぞれのテーマ、後半は自由に協議するとい</p>

	<p>う形になりますが、進行については、よろしいでしょうか。それでは、グループ協議に入りたいと思います。</p>
<p>大成学校教育課主幹</p> <p>林委員</p> <p>成瀬委員</p>	<p><Aグループ前半協議></p> <p>資料2に20の作戦があると思うので、このAグループはPlus Oneと1、2、3、4、10についてということでしたので、進捗状況と8年度以降に向けて、こんなふうな課題とか、取組があるのではないかとこのところをご意見いただけたらいいかなと思っています。</p> <p>まず作戦PlusOneということになります。みんなで育てるみよしっ子を市民で共有し子どもたちを育てていきますということで、みんなで育てるみよしっ子というのは、やはり家庭も地域も学校もみんなで協力しながら連携しながら進めていきたいと思います。そういう部分になります。その周知啓発について、第1回の際にご意見いただいていたと思いますが、今年度右側の⑥番のところ、令和5年の点検評価の分析と、R6に向けた改善というところには、みんなで育てるみよしっ子のパンフレットを、説明周知を図る、ホームページに掲載する等というのがありますが、この辺がまずどうかというところで、みんなで育てるという意識が、市内にあるかどうかというところをちょっと伺っていきなというふうにするのですけれどもいかがでしょうか。まず、林先生、どうですか。</p> <p>私自体はこの会に参加させていただいているので、こういうふうでみよし全体でというのがわかっているとは思いますが、他のこの会に参加していない園長とか、職員に関しては、どこまで職員たちが理解できているのかなという、私自身も多分発信が弱いとは思いますが、本当に学校教育課ですごく一生懸命やっていることが、隣の保育課としっかり繋がっているかというところ、ちょっと難しい部分が出てきているのかなと思うので、そこら辺もしっかり周知ができていくとそれが保護者の方にも発信ができたとかそういうことに繋がってくるのかなと思います。</p> <p>みよし市の特性でもあるかもしれないのですけれども、地元がここではない人とか、私もそうなのですが、地元が全く別で家族みんな全然みよしには縁もゆかりもなく、お仕事の関係とかでみよしで暮らし始めてという方が多分結構いると思うのですけれども。そういう人たちは、もう私の主観ではあるのですけれども、何かこう、どこまで地域の子どもたちとか、活動とかに踏み込んでいいのかなと思うことはあるなあと思いました。特に私は子どもが3人います。2人は小学校に入っているの、地域の人、おじいちゃんやおばあちゃんとかと随分顔なじみになってきてはいますが、1人っ子のご家庭の方とかマンション住まいの方は、近所の人たちの顔も知らない人多いように感じています。そういう人達に向けたみんなで育てていこうねという、そういう周知がもっとできたらいいかなと思います。は</p>

大成学校教育課主幹	<p>いありがとうございます。</p> <p>保育園だと、共働きの多いかなと思うのですが、その辺で地域との関わりとか、そういったことも含めて宮崎さん</p>
宮崎委員	<p>はい。私も今お話、皆さんのお話を聞いていて、その共働</p>
	<p>きっていうくくりというよりかは、成瀬さんが先ほど言われた通り自分も同じことを思っていて、みんなで育てるというこの言葉の意味というか、みよし市がやりたいことは何となくわかっているのですが。具体的にどういったことをすると、みんなでみよしっ子を育てているのかというのが正直僕の頭の中でも明確なものがなくて、こういうことやってますよという話ができないので。何かそういう具体的な取組、こんなことやってますとかというのをみよし市が以前からそういう発信をされているのであれば、やはり、その辺の周知というところは多分1回目協議とかグループ協議の中でも話題にさせてもらった部分かなと思うのですが。そういうところがまだ周知できていない部分で、それで、よりみんなで育てるという具体的な例とか、取組ってというのが、イメージできていないってところが一つ、課題になっているのかなってというのは、実感としてあります。共働いてという視点でというお話でしたけど、やっぱりその地域との関わりってなると、自分は下地区に住んでいるので下地区の行事だと、これまでコロナでなくなっていたけど、今年度は大分復活してきて、下地区だと小学校を借りて5月とかにレクフェスタみたいなのがあって、その地域の人たちがその全帯集まって、運動会とか、そんなようなことをこの前やっていて、今年は復活はしていないんですけど、ウォークラリーという形で秋のお祭りのときに、下地区の公民館で、お祭をやって、本当にいろんな方々、おじいちゃんおばあちゃんから本当に子どもや赤ちゃんを連れた家庭まで一緒に参加するというイベント事が、やはり外から来た方も入りやすいし、関わりももてるいい機会なのかなというのは今年度参加してみ、感じた部分です。以上です。</p>
大成学校教育課主幹	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>今の周知の方法というところと、内容、取組というこの二つのところで、ちょっと課題があるんじゃないかというご意見いただいたと思うんですけども。渡辺先生、この辺は取組とか方法があるとかそんな提案なんていうのが何か具体例をもっていたりしますか。</p>
渡辺委員	<p>はい。課題として投げかけられたときに、やっぱりみんなで育てるってイメージが私もわかりづらかったのですが</p>
	<p>具体的にこういうふうな、例えばPTAとかこども会とかでやっているこれが当てはまるよみたいなものがあればちょっと逆に教えていただきたいなと思ったのですが。ありますか。それはちょっと後にしたほうがいいですかね。わかりました。</p>
	<p>今お聞きしていて、私、昨年、地域の班長を黒笹でやった</p>

	<p>のですけれど。そうすると、先ほど言われたみたいな黒笹でウォークラリーをやっていて、そこにいろんな人が参加してそういう機会に、こどもとかこどもがいなくても地域の方とか年配の方とかも繋がりやすいのかなって思いました。こども会やPTAについては、私も小さい時は関わっていたけれど、それ以外の方となると、地域の取組というのが一つあるのかなということも思いました。周知の方法としては、これって私は結構、広報を見ているつもりなのですが、広報とかでも何か触れられていましたっけ。広報みよしなどを結構私見ているかなと思うのですが、この取組のなんかこう、皆さんが関心を高めるよう、何か載せられていましたか。私の大学が日進市で、子供ケアセンターというところのセンター長やっているのですけれどもやっぱり子育て支援に関わるいろんな周知をするときに、アンケートを取ったんですね、何をしていますかっていうところを。意外にこの今の時代なのですけど、広報を見ているんですね、もしかすると子育て中のこどもさんが小さいというところが多いかもしれないのですが、広報も見ているので一つはそれもありませんかという事は思います。あとはホームページ、SNSですかね。SNSだと、ちょっとでも関心があってハッシュタグで引かかってくると見てもらえる可能性はあるかなと、それをきっかけにできればそういうものはあんまり触れない。</p> <p>ちょっと高齢の方とかに何かの機会で、その地域の取組の時に巻き込んで話をしてもらおうとかというところは必要になってくるのかなという気はします。</p>
大成学校教育課主幹	<p>広報とSNSっていうところ話題になってきたのですが、作戦1に周知とはちょっと関わりがあるかどうかかわからないのですが、子育てに使えるようなファミリーサポートっていう意味で、確か「みよびよ」とかっていうアプリとかホームページがあったと思うのですが、成瀬さん使っているとか、知っているとかっていうのは、効果的な取組なのかちょっと違った方法もあるのか、ちょっと保護者目線でどうですか。</p>
成瀬委員	<p>みよびよは使ったことはあるのですが、使い勝手がいかと言われると、あったらあったで使うかもしれないけれども、使い込むまでに至らなかったというのが、じっくりくる感想かなと思います。</p>
宮崎委員	<p>そうですね。みよびよというのは、いつから始まったものなんでしょうか。結構前からですか。平成30年。ではもう6年前ぐらい。自分もこどもが3人いて、下の子が今6歳なので、もう上の2人がある程度こう大きくなっているという部分もあるかもしれないのですが、正直全く知らないもので。自分の友達とかでも、このみよびよとかという話題をもっていたことがないので、あまり知られてないのかなという印象ですね。</p>
大成学校教育課主幹	<p>なるほど。先ほど渡辺先生も言われたように、SNSというよ</p>

<p>渡辺委員</p>	<p>りはもしかしたら、原始的な広報とか、こども会とか、そう いった時に紹介した方が周知が進む可能性が高いですかね。 結構今アプリとかをやっているのだけれど、なかなか難しく くて、いっそやっぱりInstagramとかLINEの登録みたい な形の方がいいのかなっていうところは思います。全部の地 域かわからないんですけど、黒笹もグループLINEがあるんで すね。グループLINEがあつて、それでいろんな話が飛んでき たりするので、何かそういう、みよしでいうと班のレベルぐ らいの人数であれば、この地域の情報みたいなのを例えば班 長さんが送るとかという中に、こういうものも入ってくると、 気のある人は見るかなあと、アプリを登録してというよりは は、あと、Instagramとかだと、関心のある人がやっぱ りなんかちょっと子育てのこととか思ったときには引がか かりやすいのはやっぱりInstagramの方が引がかかりや すいかなと思って、うちのこどもケアセンターも始めたんで すね、そこは。あと、大学が日進市にあるので、日進市はラ インのところも確か動き始めたのかな。なかなかアプリだと 温度差があるというか、そう使いこなせないとかというところ もあつたりするのかなと思います。さっきの家庭、地域、 学校でみんなで育てるとなると、やっぱり今子育てのところ であるんですけど、子育てをしてない人、ちょっと高齢の方 とかあとお子さんがいない人とかにも、みよしのこどもたち を一緒に見守って欲しいと思うのであれば、地域の活動とか になるため、そこも漏らしちゃいけないのかな。だから広報 誌も含めて、地域活動のさっきのウォークラリーみたいな皆 さんが参加しやすいかなと夏祭りとか、その辺でも何かチラ シを配るとかということも必要になってくるのかなという気が します。</p>
<p>成瀬委員</p>	<p>発言してよろしいですか。私仕事で、飲食店で働いてい るのですが、お客さんがお誕生日の時に、ケーキを出して 写真を撮って対応するというサービスを行っているのですけ れども。支援センターで、お誕生日の月に書いて、手形だ ったかをお渡ししていますよね。ものをせっかく作ったから、 写真を撮ってInstagramに載せさせてもらったら、若い お母さん、結構公的な役所のInstagramアカウントがあ るかどうかかわからないんですけども、そういうのは、ちょ と手を出しづらいというか、何か自分のこどもが載せてもら えるってなったら、お母さんほほほほ見てくださると思うの で。そういう取っかかりで取り込んでいく。周知として若い お母さんを取り組んでいくというのも効果的かなと思います。</p>
<p>林委員</p>	<p>今、保育園に併設して子育て支援センターもあるのですけ ど、まずみよびよに関してですけど、この3月から旧のみよび よが廃止されて母子手帳と合わさった、ちょっとまた変わ った形になるということで、さっき言われたみたいに、前のみ よびよは奥に入っていくと情報がこなかったりとか、</p>

ちょっと使いづらかったりしたかなとは思いますが、今度のみよびよの形はまだわからないのですが、母子手帳も一緒になってというところのみよびよが新しく3月からなるよっていうところが決まっています。あと、先ほど先生の方からも広報の話があったんですけど、育児講座とか、いろんな支援センターの事業のところ、アンケートを毎回取らせていただいて何で知りましたかというところだと、だいたい地域の回覧版っていうところも、利用者の方から上がってくるので、やっぱり地域の回覧版っていうのも大切なのだなと思っています。また支援センター会議の中ではさっき言われたみたいに、インスタでも上げていけるといいねとか。あと育児講座の申し込みを、今まで電話の申し込みだけだったんですけど、QRコードからの申し込みをさせていただいたところ、半分ぐらいが、メールからの申し込みという形になって申し込んだ方に確認をしたらやっぱり、いつでも時間気にせず申し込めるからこういうのがあると申し込みやすいっていう意見も聞いているので、今後また支援センターの方もいろいろ変えていかないというところは今考えているところです。

渡辺委員

それこそうちの大学やっているこどもケアセンターで、こういうことを子育て支援としてやっていますよということを周知するのに、結局そういうインスタグラムとかは、学生の方が強いし、よく知っているんですね。私のゼミ生を呼んでいて、うちのセンターと、あと他の日進市から委託を受けている3施設っていう子育て支援センターがあるのでその人たちも来てもう学生に、SNSのことを聞こうみたいな機会を作ったんです。そしたら文字だけじゃなくて、やっぱり写真とか本当に短い動画とか、例えば場所も聞いたこともないさっきここに全く土地勘のないぱっとこられた方は、やっぱりその建物の外見とか、この近くで住みたいなとか何か入ってとかという動画が本当に2、3秒あるだけでも行きたいと、それは学生たちにしてみると、ご飯屋さんとかになるんですけど、でもそれは絶対子育て支援のところでも、若いお母さんたちにとってはすごくハードルが下がるんじゃないかというのを言われて、私もそれをやりたいねと言いつつなかなかできてはいないんですが、余力があればさっき言った、みんなで育てるみよっ子のイメージのところ、動画が無理ならイラストでとか、何か視覚的にわかるように、共有できないとアクションが起こしにくいのかなというのはいちよと聞いていて思いました。

林委員

先生が言われたみたいに、支援センター、地域の支援センター会議があったときに、支援センターでどうしても保育園の中にあるので、保育園の門を開けるのに勇気がいるというのを、すごく聞いて。こちらとすると気軽に開けていただきたいなと思うのですが、やっぱりそういう意見があるとどうしたらいいのだろうっていうところで、すごく思っていた

<p>渡辺委員</p>	<p>のですが、今お話を聞いて、その動画を見れば何となくわかればというところも大きいのかなとすごく感じました。</p> <p>不審者対策もあって私、保育の現場にもたくさん研修で行かせていただく時に毎回私も呼ばれているから入っていいはずなのに、これを鍵開けて、こっちやるとか二重ロックになっているのでここを押してくださいとかをやると、多分地域のちょっと行ってみようかなあという人はやめとこうかなとなるかもしれないですね。だから例えば、インターフォンで声をかけてくれれば、保育士が行きますとか、何かあるだけでも、ちょっと行ってみようかなとか、話聞いてみようかなとか、そこにチラシが例えば置いてあれば、みんなでみよしってこういうことやっているんだというようなチラシみたいなものがあると視覚的にもイメージしやすいのかなと思いますね。</p>
<p>新美教育部参事</p> <p>山田委員</p>	<p>< Bグループ前半協議 ></p> <p>Bグループにつきましては、学校教育ということで小中学校、学校の方ということでよろしくお願いします。基本的に内容については現状もそうですし、令和8年度からは新しい教育振興基本計画を策定していくため、今後こういったものを盛り込めたらどうかといった話までできたらと思います。今、作戦がたくさんあるけれど、全部は多分時間では無理だと思うので、さっきキーワードで来た自己肯定感というところに焦点を絞っていきたいなと思っています。</p> <p>資料2の中に各作戦があるんですけども。一番初めは作戦5がかかわってくると思っていまして、自ら考える力をつくる楽しい授業をみよし12で実践しますというところで、各小・中学校とも、こどもたちが関わり合って、自分の考えを他の人に認めてもらうなどの自己肯定感を高める取組は行っているとは思いますが実際コロナがあけて戻ってきて、成果としてこれからっていうところとは思いますが、まず、小中学校の現場の校長先生、教頭先生がみえますので、どういう取組がされているのか情報を寄せていただければと思うんですが。</p> <p>緑丘小からいいですか。本校では研究で学び合いが、昨年度からかなり中心になってきていますので、学び合いが自然に生まれるような課題を提示して、その問題について、こどもたちがやっぱりどういうことって、ちょっと首をひねるような、場面が生まれるような問題を提示することで、自然とこどもたちがこう頭を寄せ合うような瞬間が生まれるような授業を目指しています。なかなかまだ思い通りにはいかないのですが、だんだんこどもたちが頭を寄せ合って話をすることが自然になってきたことと先生方も、それを目指そうとしているので、先生方にまずどうそれを浸透させるかということが第1なのでやっぱり現職教育に力を入れたいと思っています。今年はかなり会議をとにかく減らして、現職教育の時間を確保できるようにということで、努力してい</p>

<p>新美教育部参事 春山委員</p>	<p>ます。 三好丘小で力を入れているところはありますか。 緑丘小学校さんと同じように授業研究の力を入れていま す。同じようなことです。話し合っってわからないことや、解 決するという、新指導要領で目指しているところなので、ど の学校も同じようにやっていることかと思ひます。気になる のは、何で数値が5ポイント下がっているのか、分析が自分も できていないので、今言ったようなことを行っているが、な んでこの効果がマイナスになったのかということが疑問に 思っています。</p>
<p>新美教育部参事 宮田委員</p>	<p>中学校の取組としてはどうですかね。 南中はですね、道徳と教科と学級経営で講師を呼んでいて、 今年はわからない子が教えてと言えようになったんですけど、 ペアやグループまではいくんですね。それをじゃあ今度 全体に話し合ったものですから、広げようとする、もう発 言者が固定されてくると、そこがですね、なかなか今崩せな いところで苦しんでいます。あと、どうしても授業は個人の 技量の差が出てくるものから、中堅とかベテランの先生 はすごく上手にやるんですけど、若手の先生が行うと申し訳 ないなというような授業もあって、その底上げをどうするか というのがあります。ただ、近年、働き方改革という言葉の もと、以前に比べて研究授業が減っていますよね。今までは1 人1実践、それが最近は学年で2実践とか、そんなふうになっ てきているところが本当に苦しいなと思ひます。若い子なん かだと集まって道徳などの研究をやっていますけど、それで もなかなかまだ崩せない。全体が底上げするような感じには なっていない。</p>
<p>新美教育部参事 近藤委員</p>	<p>ここ数年学校訪問で本当に行ったときしか見てはいないと 思ひますが。 授業よりも、やっぱりメタ認知のところしか、その観点し かどこの学校も三、四年間見させてもらってないのですけど も、やっぱり三好中学校が結構メタ認知で物事を考える基本 的な見方、考え方、広げ方を含めて、多分伝統的にやられて きたと思ひますね。それがこの4年間でまた問ひかけのレベ ルが、結構上がってきていて、それがまたみよしの4中学校に 全部広がってきているような感じがします。もうどの学校も そのレベルで、いろいろな行事に対する問ひかけの最初の目標 設定で何のためにとか、友達にどうするとかそういう細かい 問ひかけがよく練られていて、それが今年は中部小学校にも 一部高学年で、それに近い小学校レベルで認知できるような ことも、いくつかの取組があったので、みよし市内で人事交 流があるので広がってきているのかなという感じがしまし た。なぜ、私がメタ認知にいつもこだわるかという、問ひ かけと、それからそれに対して一人一人のこどもがどう自分 の言葉で表現していくか。自分の言葉でその目標に対して、 考えられないとできないので、その点が今、中学校がいろん</p>

	<p>な行事に取り組むところがものすごくポイント絞って、すごい取組をしているんですよね。先生がそれを理解し、すごいことだと思っていないかもしれませんが、僕は全国発表したらいいじゃないかなというような本当にレベルの高い、問いかけの形式がどこもやられていて、その内容がまたすごいんですよ。レベルの高い問いに対して自分であれだけ書けるかなというのと大人でも書けないようなことが結構。本当に特定の子だけかと思うと全員が掲示してあるのですごいなという。だからあれがやっぱり今ここに自己肯定感とか言っていますけど、目標設定とそれに対して取り組んで、どう評価して次にステップというのがPDSのサイクルが、一人一人と、なおかつグループと学級と学校という、全部のレベルでスパイラル組んでやっているの、あれが、授業と直結するといいのかなと思っています。</p>
<p>平尾委員</p>	<p>今皆さんのお話を伺いながらそうだなというのをすごく感じる部分が多くて、高校なんかでもやはりいろいろ自分たちで研究をしながら、探究をして、より深まった学びをとということで行っているんですけど、一つの課題はやはりこの教員の意識をどういうふうに変えていくか。子どもたちにいろいろと考えさすとか、発表させるというので計画していくが、教員はある程度、自分の範疇におさめさせたいんですね。個性となってくると、もっとそこを飛び出してくれてもいいのかという気がするのですがちょっとそのあたりが、教員がコントロールしすぎてしまって、今言った自己肯定感の部分で、そこがちょっと抑え込んでしまっている感じはしています。ですから、私は個別に生徒と話す機会があればあまり型にはめずにといいことは言うのですが、やっぱり教員の意識が、いかに目標があって、こういうふうにしたいというところで話し合いをさせると思うんですけど、あんまり枠の中にはめてしまうというところは子どもたちの成長という面ではどうなのかなと感じているところで、やっぱり悩みは一緒だなってような感じです。</p>
<p>新美教育部参事</p>	<p>それぞれの立場で感じたことをおっしゃっていただいて。今、自己肯定感のところ、ポイントが下がっている部分もあり、やっぱり一方通行的な授業の蓄積という部分があったというのも否めないかなとは思いますが、これを改善し、今、各校で努力はしているのかと思うのですが、こういう方法が有効ではないだろうかといった案みたいなものはいかかでしょうか。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>近藤委員が言われた振り返りで自分が立てた目標に対して、客観的に一番どうだったかっていうメタ認知ですね。自分自身で自分の活動を振り返ってとかもあると思うんですけど、いかがでしょうか。</p> <p>基本的には今ありますけども、わかる授業、できる授業、楽しい授業とあるんですけど。これどっちかという、指導要領にある教える内容がまず最低限こどもに理解させなきゃ</p>

いけない。時間が50分でこの内容を教えなきゃいけないという一番効率なのは、塾の先生がよく使う、ここがポイントだ、覚えろという方法が一番で、授業のあり方でいえば何も考えなくてもいいので、一番簡単ですよ。だから僕は塾の先生はいいなあと思いながら、考える能力なんて関係なく覚えて、アチーブメントができたかどうかだけしか評価されない。ところが学校の先生は、一人一人がその課題に対してどこに問題点があるかというのを、まず自分の頭の中にあるすべてのデータベースを、全部計測して、今日の課題はこのところと関係あるよねとか、多分A君とB君とC君のデータベース違うので、全部出してくるところが違うんで、それを先生方うまくとって、それで話を合わせて、なおかつ学校の先生に求められるのは、今日の授業の中に僕の考えは、貢献したぞと言って初めてそのサイクルで、みんな今日はだれだれちゃんの意見がよかったね、みんな深い学びができたねということで学校の先生はフォローしなきゃいけないですね。そうするとすごくやっぱりこれ高度なテクニックだから教えることがあってなおかつ一人一人のこどもが自分が解決したような、要するにプロセスを、時間の中に組み立てて、子どもがよかったという成就感を味わうのは、アチーブメントで95点100点取れたっていうものになる。その点数の喜びとは全然違うことを学校の先生は問われるので。その辺が保護者の方に、先生がすごく日々苦勞していることが伝わっていないと思う。ただ先生たちはテストの点を上げているわけじゃないよ、細かい取組をしているんだよといったアピールが弱いような気がするんです。だから今日、増岡教育長先生が、今度の来年度の教育の施政方針は、文字数にすると1万文字になるけども、それやると時間がなくなると言ってみえた来年のポイントを、増岡先生はこの場で来年はみよしの教育はここに充填しますと言われたような部分が、担任も、校長先生も今まで足らなかったような気がするんですね。だからその部分をもっと、これから子どもたちの学校教育の中では必要だと思うのですが、それを多分市役所もみんなペーパーとホームページに載せたら伝わると勘違いされていると思いますがどうもそうじゃないような気がしています。一人一人が認識するためには、一人一人の対話の中でしか、認知されないような気がして。だから、校長先生とか、担任の先生は一生懸命プリントを配って皆さんに公開しようとされるけど、紙になった時点で先生方の熱意は伝わらないので、何か生の声でもっとこうしているのですというのが一人一人のこども、なおかつ親に伝わっていくような取組をしていくと、みよしの学校教育はもっとよくなるような気がするというのが、教育委員をやらしてもらって、1年目、2年目、3年目はそこまで感じなかったんですけど、特に4年目になってそういうことを強く感じるようになりました。以上です。

新美教育部参事

アピールというかその思いをきちんと口で教員だとか保護

<p>近藤委員</p>	<p>者の方に伝わるような手段が必要ではないかということ。それはマンツーマンでしかどうも伝わらないような気がします。効率が悪いんですよ。どうも一斉に行ったのはどうも伝わらないような、最近もそういう思いが強くなるのですけども。</p>
<p>山田委員</p>	<p>学力・学習状況調査の結果だと思いますが、3年前の時に、本校がまだその学び合いがまだ全然いかない時に、まず今日のめあてを必ず板書をして絶対やりましょうと。100%を目指しましょうとことでやって、それが学力調査の教員の結果はよかったんです。また学校評価も、教員はめあては書けていると。だけどこどもの結果はあんまり芳しくなくて、先生はやっているつもりだけど本時のめあてだよと先生があんまりアピールしてなかったの、次の年はこれめあてだよと必ず言いなさい、書くことは当たり前だけめあてはこれだよねという、こどもたちがめあてを意識できるように、めあて書いたよねということ、授業の中で必ず言うということ、2年目にやったところ、こどもの結果も少しあがってきて、それが今上がってきているんですね。近藤先生の話じゃないですけど、やっぱり本当何のためにこれをやるのかというのがやっぱり言葉にして、こどもには授業の中できちっと言うとか、保護者にも何かそういういろいろなツールがあるので、それでこの活動はこのためにやっている。研究もこのためにやっているんだってことを説明していくことが必要なのかと思いました。</p>
<p>宮田委員</p>	<p>今地域コーディネーターの方とか、地域連携ですごく成果が出て、本当に三好高校の子が、こないだも、スポーツ科学科の子が剣道を教えてくれる。やっぱり全然違うんですよ。教員も学べる。それからこどもの意欲が全然違うのです。 ある時は、書道で、先生とかがグループで来てくださいます。家庭科だと、切り干し大根で、東山区長さんたちが、関わってくれるんですね。浴衣の授業や調理実習でも打越の区が浴衣を寄付してくださったりして、すごくゲストティーチャーが今機能していて、本当にこの教員の指導力という面から離れてしまうのですけど、こどもの主体性を引き出すという面では、教員も勉強になりましたということで、充実しているなということ、をすごく思っています。</p>
<p>新美教育部参事</p>	<p>ゲストティーチャーというその道に長けた人というような思いがあるかもしれないし、その道を知っている人から教えてもらえるということが、こどもたちの意識のなかにあるかもしれないし、モチベーションとか意識が高められることにつながっているのかもしれないですね。</p>
<p>山田委員</p>	<p>陸上部の方が来てくれて、特別支援学級のおにごっこ、逃走中をやって欲しいという要望したら、ちゃんとサングラスをみんな持ってきてくれて、鬼ごっこをしてくれて、こども1人に高校生2人ついて、上手に逃げしてくれるんです。捕まるか捕まらないかの、すごく高校生は上手にやってくれて、本当</p>

<p>新美教育部参事 平尾委員</p>	<p>に子どもたちは大好きになっちゃって、あと5年生の子ども、ハードルとか教えてもらったら、最後にその技術を見せてくれたのです。そしたらそのペアだった男の子が、俺のコーチいいだろうと自慢していて、本当に高校生の地域の方もそうだけど、学校外の人に学校に入らせていただくことは本当によくて、また三好高校さんには来年も来ていただきたいなという話はしています。</p>
<p>新美教育部参事 春山委員</p>	<p>生徒さんの声はありますか。 すごく楽しかったと帰ってくる生徒が多い。反省も多い。もっとこうすればよかったとか、準備したのに半分ぐらいしかできなかったなど、それは高校生にとっても学びが多いのですごくうちはいい機会をいただいている、小中学生、幼稚保育園ともかかわっていますから、そういう子たちと接する中で、やっぱり高校生が感じ取ること、自分の考えたことと実際やってみて、違いがものすごく浮き彫りになって帰ってくるので、とてもいい教育をしていただいていると感じているのでぜひ継続したいなと思っています。</p>
	<p>はい。ありがとうございます。他いかがでしょうか。 わかる授業、できる授業というのが、どちらかというと、成果主義的な印象がすごくあって、教育長が言われたのは、行きたくなる学校、楽しい学校。だから、ゲストティーチャーとかは、本物と接して、好奇心がくすぐられるのだろうなど。だから、子どもがどうしたらこうは知りたいとか、やってみようという、そういう課題に巡り合うのか。教科書はそういうふうにする努力はしているんですけども、子どもが、これを勉強しなければではなくて、どうしたら勉強したくなるかなど。やっぱり教員が、教材と生活を結びつけるとか、おにごっこであれば、こういう部分と結びつくとか、徒競走とおにごっこが結び付いたらすごくおもしろいだろうとか、そんなカリキュラムだったらわくわくするだろうとか。そういう視点で先生方が、学びたくなるというか、そんなようなことになるとそれを子どもが自分で問題解決する、自分で計画して問題解決するということができるといういいなと、これは小学校1年から積み上げていくといいなということと、三好高校のスポーツ科学科の発表を聞きに行くとなると本当にとても生徒さんが工夫してね、どうやったら解決できるか、こうやったらうまくいくのではないかと考えながら発表をしているので、どうやったらそんな力がつくのだろうかと思っています。 保護者は、子どもが持って帰ってくるのは、テストになってしまうのでそれだけでやっぱり判断する人と、あとは成績とか、子どもとの会話がこっちになるのかなど。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p><Cグループ前半協議> このグループはCグループということで、生涯学習、社会教育、地域連携についてということいろいろとご意見いただくというふうになっております。皆さんにお配りしてあります、こちらの資料に今のところの進捗状況ですとかを示してございますのでこういったものを見ていただきながら、課題ですとか、</p>

富樫委員

改善点も含めて、お話いただければいいかなというふうに思います。教育委員会の職員もおりますので、いろいろとわからない部分ですとかもうちょっと説明がというところがあれば出していただければ、お答えさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。特に作戦の13以降っていうところですかね。どこからでも結構ですので、お気づきのところからどんどんお出しただければと思います。いかがでしょうか。

現状コミュニティ・スクールの作戦13、地域とともにある学校づくりを進めますというところで、私は三好中学校の地域コーディネーターをやっている関係で、三好中の現状をいいますと、令和5年度は新しく取り組んだこと、昨年より取り組んでいた草取りとかを含めて、新しく、「わくわくわくわく作品展」というものを年度に4回やりました。地域の方はどなたでも入ってきていただけるような体制を学校側が整えてくださって、展示もその1回2回3回4回、それぞれテーマを変えてやられましたので、あれは大変効果的だったと思いますし、三好中校区でない方も来てくださったりとかして、よかったかなと。あとは、一番盛況だったのが、卒業生と地域の方の作品展で、卒業生も今は三好中校区外の方でも、三好中を卒業したという、60年配の方たちの作品もあり、私は文化協会も関わっていますが、文化協会の作品展とまた違った意味で、とても楽しめる作品展になって、生徒たちにも刺激を与えたんじゃないかなということがありました。それで、不登校だった生徒さんが何と作品を出してきて、あれはすごい感動で。そのお父さんがとても今まで学校に対して、自分の子が不登校だった。私はそれをちらっと聞いただけなので、はっきりとわかりませんが、とても学校に好意的になられて、次の書道のときも、作品をお父さんの方が出してくださったりして、とてもいい関係が築けられたかなと。今一番よかったのはそれです。あと、わらび福祉園のわらびさんと連携を来年度もやっていきたいなというのは思っていますけど。以上です。

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹
鈴木康之委員

はい。ありがとうございます。早速具体的な例も出していただきましたけれども、関連していかがですか。

スポーツ推進委員の鈴木と申します。23年ぐらいスポーツ推進委員とそれから地域総合型のなかよしクラブの先生を23年やっていますが、まず私が関係するのは35ページの作戦16、市民がいろんなスポーツを楽しめるようにしますということで今、その地域総合型スポーツクラブですが、いろんな種目があって、こどもさんたちが最近スポーツを楽しめるという人はいないので、ぜひ楽しんでもらいたいということと、親と子で同じようなことができる、同じようなスポーツをやれば、家庭に戻っても同じ話題ができるので、できるだけそういう種目をたくさんやっていただくとありがたいなと思っています。今私が教えているショートテニスも、今こどもさんと親がなかなか一緒にやってないという状況なのですが、コロナの前はお母さんが20人ぐらいこどもさんと20人ぐらい来て、隣同士のコートで、親もワーワー言いながら、こどももワーワー言いながら、非常にいい関係の競技をできたなと思っていますけど、ぜひそういうことが多くなってくるとありがたいな思っております。

<p>内田委員</p>	<p>す。以上です。</p> <p>図書館協議会の内田と申します。以前から個人的にも小学校中学校の読み聞かせボランティアを、2000年あたりからずっと20年以上やっています、小学校は、絵本でばっちりなんですけれども、中学生の読み聞かせも絵本でやっていたんですね。それが問題ないのかなと、ずっと疑問にもっていて、こちらの会でもボランティアさんのレベルアップをぜひ考えて欲しいということをお願いしてきたのですけれども、何と、2月16日に、「中学生と本をつなげるためのボランティアができること」という、もうばっちりのテーマの講座を図書館が開いてくださり、希望通り、小幡章子先生という、本当に子どもが読書を通して人生を力強く生き抜いていくテーマの本をいっぱい紹介していただいて、ぜひ朗読をやったり、それから本の紹介をしたり、10分間しかないんですけれども、その時にぜひやってくださいというゴーサインが出たんですね。今まで絵本に限りませみたいな、暗黙の了解があったのが、そこで、テープ切っていたなと思って。それから、そこに中学校に行っているボランティアさんたちも多数、その先生の講座を聞くことができ、これからちょっと中学校の読み聞かせが変わる第一歩が始まったなと思いました。とてもよかったですと思います。</p>
<p>大地委員</p>	<p>お願いします。作戦14のところでは私は社会教育委員なので、ここら辺が関わるところだなというふうに感じています。サンライズでいろいろなことを学べるようにしますというところでは、本当に私も講座に参加して実感したいと思いついて参加しています。参加してみるとすごく楽しかったり、興味深かったりということで、いろいろ考えられているなということを実感しています。ただそれがどのぐらいかというところで成果指標のところ、延べ人数というふうに出ているんですけどもコロナとかもいろいろあってということもあって、令和5年度は減っているということもあるんですが、延べ人数ということは私もここで話させていただいたんですけど、延べ人数がいいのか、実際に何人の方が関わってという実人数ですかね。そういうところはきっとわかると思いますので、そのあたりを問題にしていくことも大事なかなということを感じています。それから、今日もお話の中にも、市民のニーズという話が出てきているんですけども、市民のニーズとひとくくりにしてしまって、市民のニーズって何ていう、生涯学習とかこのサンライズの講座に行きたい人が何を望んでいるかというのもニーズでありますし、市民としてどんなふうな生涯学習を希望するかというところもニーズでありますし、この市民のニーズっていう点をもう少し、何を対象にしてとか、何を目的としてとか、ニーズという言葉でくくってしまうと市民のニーズでまとまってしまうんですが、やっぱりそういうところをきめ細かく、これから考え、やっぱりそれを把握するところに力を注ぐということは大事なかなということを感じています。</p>
<p>鈴木睦子委員</p>	<p>はい。以上です。</p> <p>作戦17のみよしの歴史や文化についてのところですが、小学校2年生になると、自分たちの地域を回って、お寺を見たり、地域の公民館を見たり、学習するだけじゃなくて、実際に自分</p>

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹

内田委員

がその場所に行って感じる。それで、3年生になると、ふるさとみよしという学習をするんですね。そうすると、歴史民俗資料館に行って、実際に土器を見たりする経験もするんです。だから今タブレットで本当に便利に勉強はできていますが、やっぱり自分の五感を大事にする、そういう実際に触れるということがものすごい、そういう場を与えてあげるっていうのがすごい大切なことだと思います。それと北中学校から、私たちの地域のいきいきクラブなのですけれども、そこに中学生に交流をもつ会を作ってもらったんです。風船バレーボールをしたり、ボウリングを考えたり、その中学生が考えたことを私たちが一緒にやったんですけれども、中学生と触れる機会がない。地域の美化運動とかなんかではそういうこともやっていただいている。中学生と触れる機会をそうやって、中学校がもってくれる。私たちも、三好中学校みたいに、こちらからアプローチしたのかどうかはわかりませんが、そういうことができれば、いいなと思います。それでやっぱり防災の時には、本当に中学校の子たちは私たちの力になってくれる子なので、地域とやっぱり顔見知りじゃないですけど少しくコンタクトがあった方が、いいなと思う。自然に進むのではないかと思います。以上です。

はい、ありがとうございました。今一通りですね、委員の皆様からもこんなふうだよという、かなりどちらかという前向きなところを教えていただいていたんですけれども、今後さらにというところもあるもんですから、こちらの中でも課題ですとかこういったことをやっていた方がいいのではないかと先ほど大地先生の方からも、そもそも指標の見直しというのも、もうちょっと必要なんじゃないかということもあったもんですから、そういった改善点ですとか課題みたいなことも、今の出したこともいろいろおっしゃっていただけるとありがたいかなと思います。あんまり時間もないので、ちょっと急ぎ足なっちゃいますが、お願いします。

先ほど言いました中学生の読み聞かせのボランティアさんのレベルアップの講座は、1回ではやはり浸透しないというか、何回もやって欲しいというので、継続してやっていただきたいなと思っています。それからちょっとまた違うことなんですけれども、こちらの資料3の23ページのこの本の好きな子の育成のところの244のところですけども。学校図書館の蔵書の充実で、蔵書率の維持と新刊図書への定期的な更新という行動目標を立てられて、今、実績としては、蔵書率100%達成校が11校で、新年度は、蔵書率100%達成校が12校という、数字では上がっているんですが、実はこの蔵書率100%というのは、もう、これ変わらないですよ。この次の数字を目指して欲しいなと思って、蔵書率の中身を吟味して欲しいと思っています。すごく古い本がまだあって、それも蔵書率の中の1冊に含まれているんだったら、それは99%でその古い本がない方がいいです。古い情報に左右されることなく、そこにある本は全部信用して、この本にある数字が一番新しいよという信頼のある図書がそろっていて、本当だと思うので。今度この蔵書率100%からちょっと一歩踏み込んで、中身をちょっと何とか工夫して調査して欲しいと思います。

<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 大地委員</p>	<p>ありがとうございました。続いていかがでしょうか。かなり具体的なアドバイスをいただけてありがたいです。</p>
<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>わからないので教えて欲しいことになります。作戦15の市民が発信する生涯学習活動を応援しますというので、とてもこれも重要なポイントだなというふうに思います。この中で、令和5年度の評価のところ、生涯学習活動団体数を増やすための啓発っていうのがあるんですけども。広報みよしへの掲載ということですが、これはどんな形で行われているのか知りたいなと思います。今のところはいかがですか。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 富樫委員</p>	<p>生涯学習課二子石です。広報みよしへの掲載ということでお尋ねでございますが、例年ですね、年度初め等タイミングの時に、広報誌に呼びかけということで、生涯学習活動団体、またサンライブへの登録団体というような形のものもありまして、そちらの方を広報誌に載せさせていただいて、その登録された団体については、週末に行いました生涯学習発表会だとか、そういったところに参加いただけるというようなことで、メリットですね。そういったところで、皆さんが自主的にやってみえる活動を登録していただくことによって、サンライブという場所で発表する機会もありますので、積極的に登録いただけませんかというような内容で広報させていただくとという格好になります。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 富樫委員</p>	<p>やはり周知していながらもやっぱりそこら辺が現実的なところもあるのかなって。どんな仕掛けができるかそういった周知がもっと進むのかなというところが課題でもあるのかなと思います。他のことでも結構ですいかがですか。</p>
<p>橋本歴史民俗資料館長</p>	<p>先ほど鈴木さんがおっしゃった歴史のことにに関して、文化協会の郷土史研究会っていうものが、「目で見るとみよし」という小冊子を作って発行しました。それを各学校1部ずつぐらいしか渡っていないんですが、結構お金がかかったんです。すごくわかりやすいので、字がいっぱいじゃなくて写真が多くて。あれをもう少し活用していただけるような方向へもっていただくとうれしいなと思います。</p>
<p>鈴木睦子委員</p>	<p>歴史民俗資料館の橋本です。今、目で見るとみよしのことで市民団体の研究会の皆さんが頑張って作られたということで、市としても、内容的にも確かに見やすく、かなり好評だったということだったので、一応タブレットで見られるような形で学校には、資料は提供してますのであとはちょっと先生たちの学校のプログラムというかそういったカリキュラムもあると思いますけれど、活用していただく。あのような内容で、資料の提供はしておりますのでその辺をもう少し、学校と資料館も含めてですけど協力してやっていくところが私どもも課題として考えておりますので、また今後、そういった教材として使っていただくような形で働きかけはしていきたいなと思っておりますのでよろしくお願いします。</p>
	<p>小学4年生から部活が今度なくなっていくという話で、地域のスポーツへだんだんと移行していく。4年生が終わってからすぐ家に帰るが、家に帰ったところに行く場がないという子が増えるんじゃないかと私は思うんです。そうすれば、地域のそういう場に行ける家はいいですけども、習い事に行ける子はい</p>

<p>鈴木康之委員</p> <p>鈴木睦子委員</p> <p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>いですがけれども、行けない子はどうするのかと学校にいたら学校で、何かやるという方向はできないものではないでしょうか。</p> <p>今の地域総合型でスポーツができるかということですが、ソフトテニス連盟もいろいろと検討会をやっていまして、なかなか先生の確保とか、場所の確保ってよく言うのがなかなか難しく、話は出るんですけど、なかなか進んでいかないという状況なんでちょっと難しいところあるんでちょっとまだ課題が多数あって、本当は子どもたちをその場で見る人がいたらいいなと思うんですけど。ちょっとそういう状況です。すいません。</p> <p>1月の時に書道展というか、書き初め展がありますけれども、その時に、1年生2年生の筆圧がまるでないと感じました。Bとか2Bとかいう濃い鉛筆を持っている子が多いと聞きました。筆圧というのは人間の握力、健康状態にもよるので、そのタブレットとかそれに平行して、何かこう運動機能が落ちているんじゃないかとすごく懸念しています。</p> <p>はい。ありがとうございました。今授業の後のいろいろな体験活動ということであったんですけども、今年度からですね、小学校の2校先行して、放課後子ども教室というのを始めていてそれがスポーツやスポーツって言いながらもあんまり部活みたい本格的なところは行ってないんですけども、運動に触れる場であったり、あるいは工作ですとか、そういったものを体験するというのを試行的にしているのですかね。モデル事業として進めています。来年度からは小学校全校で行っていくということで今準備が進んでいるところです。ただ、課題としては先ほどあったように、また指導者が十分に確保できてなくて、準備するけれども、講座ですとか指導者がそこまで追いついているかというところ、なかなかそうではないところもありまして、そういったところは、さっきあった地域の方が、こんなことができるよというのをたくさん提示しながら地域と連携しながら、地域の子どもたちを育てていける。それで運動もそうですし、文化的なことと広くいろんなところに触れていって、その子どもたちのいろんな可能性を広げていく。そんなことができたらいいなということで今進めているところです。課題は多いです。そんな状況です。</p>
<p>長谷川学校教育課主幹</p>	<p>Aグループ発表</p> <p>Aグループは、家庭、子育て支援ということで話させて話し合い行いました。まず、プランのところ、みんなで育てるところが鍵になっているんですけど、そもそもみんなでするところの具体的な取り組みやその方法等が周知できているのかなというところが話題になりました。例えば、幼稚園・保育園とか小中学校の先生から保護者へ、それから他地域からみえた方は、なかなか一人っ子であったりとかマンションで御住みになったり、なかなか関わりがもてないのではないかと。地域の皆さんに全員に関わってもらうためにはどうしたらいいのかなというところ、やっぱり地区のイベントとかお祭りとか、子育て世代だけではなくて、地区の全員が参加できるものが、やっぱりいいんじゃないかというような話になりました。それから、周知というところについて、やっぱりSNSももちろんあるんですけど、広報みよしとか、回覧版とか、昔からあるこの地域に密</p>

<p>酒井学校教育課主幹</p>	<p>着したもので、周知をしていくのが大事じゃないのかな。それから SNS はすごく話題になって皆さん見るようになっていくんですけど。みよびよも今のところあまり知られていないところも多かったり、使われていなかったりというところがありました。その SNS を使うにあたっては写真とか、動画とか、行きたいなとか、ちょっとやってみたいなという例えば保育園だったら、そのときのこの動画を見せるとか、そういうような形で、ちょっと配信の仕方や内容も工夫するとよいのではないかな。それからやっぱりそれも積み重ねなので1回出して終わり、作って終わりではなくてやっぱりちょっと定期的な配信が必要だなというお話をしました。以上です。</p> <p>B グループ発表</p> <p>B グループは学校教育という点で話し合いをさせていただき、さらにもう少しキーワードを絞らせていただいて、自己肯定感をキーワードに話をさせていただきました。まずは小学校・中学校・高校での自己肯定感を高めるために行っていることについて出させていただきました。小学校では学び合いから、授業研究から普段の授業にも浸透させていく。中学校はペアやグループができていくのだけれども、それが全体に広がってないような自己肯定感が生まれてないちょっと原因になっているかなという話題にもなりましたから、全体的にここで一番出てきたんですけれども、教員の意識改革。これがなされていかないと、こどもに浸透させる前にまず先生たちが、自己肯定感というものを上げるための意識改革をしていかなきゃいけないというふうな話も出ました。また違う視点からですね、メタ認知の観点ということで、みよし市の小中学校に関してはかなり浸透しているという話になりました。これがスパイラル的に上がっていくことでより自己肯定感も上がっていくのではという話で、前半を終えました。後半ですけれども、自己肯定感を高めるための一つどういったことを進めていけばいいかという話題では、これは保護者がこれだけ学校の先生が頑張っていることを、実際、わかってないのではないかという話が出ました。もちろん、こちらは紙面だとかホームページだとか、あらゆるツールを使って行っているがやはり生の声じゃないと実際伝わっていない現状があるのではないかというのが一つ出ました。それから、自己肯定感を高めるために、やはり今でも学び合いを授業ではやっているけれども。もう少しこどもにも、きちっと浸透させなくちゃいけないから、先生たちにもさらにもう少しやっぱり意識させていかなきゃいけないという話題と一つの例として、地域との連携というものがとてもうまくいっているという話になりました。やはり、例えば三好高校のスポーツ科学科の生徒さんがまた陸上のことを教えに行くところでは、教員もこどもも、やっぱり自分の知らないことを教えてくれる学べる機会になっているというのも、一つ話題になっていきました。これは少し自分は興味をもったんですけども、先生たちとこどもは学んでいる一方、高校生たちはどう考えているんだというところで小学校中学校等ではとてもありがたい活動だったんですけども、高校生は高校生でやっぱり足りないことがあって、</p>
------------------	---

事務局・多治見

反省しながら次につなげていくって、これも一つ自己肯定感を高めていくための次のステップになっているのかなというふうに話題となったところです。以上です。

Cグループ発表

Cグループは生涯学習社会教育地域連携ということで話をしています。それぞれの作戦についての進捗状況と、それから令和8年度に向けて、こう改善するといいいのではないかと具体的な意見までいただいている状況です。こちらの立場から、学校への働きかけというところで行くと、まずは、地域と繋がる方法をぜひ学校が作っていただきたい。そうすると、地域の足を踏み入れやすいといった意見になっています。具体的には例えば三好中で言いますと、今年度わくわく作品展をやったことによって、校区だけでなく校区外の方も出入りして、いろんな方々に来ていただけた。または卒業生の作品とか、そういったものを飾ったときには大盛況だった。それから不登校の子どもたちの作品も出展されてとてもよい機会になったということもあるので、そういった部分をもっともっと開いた環境にしていけると地域との繋がりができるのではないかと、もしくは、防災教育で、北中学校もやっているけれども、何か地域とつながる活動を学校が考えてもらえると本当に連携がしやすいのではないかと意見が出ています。それから、スポーツという観点でいきますと、親も子もできるスポーツを市が企画して行っていくことで、共通の話題ができ、親子関係がよくなり、家庭支援につながるのではないかと意見もあります。一方で、来年度からは小学校の部活がなくなっていくということで、今後どうなっていくのかなという心配をされている方もいらっしゃいます。特に筆圧が弱くなっているという傾向もやはり出ているみたいなので、本当に今度運動機能が低下していくんじゃないかというところがあるので、その辺もこの後の話し合いで話題にさせていただけるとありがたいなと思っています。あとは、実際にその場に行き行って学ぶ教育ということについては、ICTもいいけれども。そういった五感を使ってもらえるという教育も、これからも続けてやっていきたいなというような思いがこちらにはあります。「目で見るとよし」を各校に配布させていただいているけれども、文ばかりではなく、写真とかもたくさん入っていて、視覚的にも分かりやすいものであるため、そういったものも使って、各校で授業に取り入れていただくとありがたいなという意見が出ています。中学生の読み聞かせという部分で、絵本以外の本でも行っていけるのではないかとという広がりや可能性を感じてみえるのでボランティアスキルを向上できるような講座も社会教育の分野でどんどん取り入れていっていただきたいという意見が出ています。

大成学校教育課主幹	<p>＜Aグループ後半協議＞</p>
成瀬委員	<p>続きということで家庭支援の部分の課題をちょっと洗い出しておきたいと思うのですが、他のグループ見ると、特に学校教育なんか自己肯定感等っていう部分もあると思うので、家庭支援と、自己肯定感っていうのもちょっと繋がっていく部分も、家庭での自己肯定感の向上に繋がる部分もあるんじゃないかなあというところも含めてちょっと課題を少し教えていただけるとありがたいと思うんですけどもいかがでしょうか。</p>
大成学校教育課主幹	<p>放課後子ども教室とはどんなところになるのか。なんか昔ながらの遊びをしたりする、そういう場所ですか。</p>
渡辺委員	<p>季節によってスポーツやったり、工作やったり、放課後の子どもたちの居場所づくりじゃないけども、通年で何かバスケットをずっとやるとかじゃないんですけども、季節ごとに運動やったり、文化的なことをやったりというところで放課後に子どもたちの活動を保障してこうというような場所をイメージして考えてもらったほうがいいのかなあというふうに思うんですけども。放課後子ども教室は、今年度はみよし市では、北部小と天王小でやっているけれども、基本的には、委託に出しているんで、委託に出したところで、学生がボランティアに来てくれたりとか、サッカーとかバスケとかも、基本的には委託に出しているんで。詳しいことを聞きたいならば次長に聞いてみますか。</p>
木戸教育部次長兼 学校教育課長	<p>三好高校のスポーツ課の陸上部で娘が出たけれども、やっぱり地域の小学生の子達と関わって、まさに自己肯定感がそれだけ単発でということはどうなのかと思いますが、関わりの中で今まで自分たちが自分たちのためだけにやってきたことを教えてみるとか、地域と繋がるとかでめちゃくちゃ感謝されるってかかっていうことが、せつかくなればこの放課後子ども教室というのを委託ではなくてちょっとコーディネートする方は大変かもしれないけれど、みよし市役所の中のどこかの部署でやれるとよいかなと。だからそれは全部学校というのは無理だと思うので。であればちょっとコーディネートは市役所の中のどこかの部署がやって、全部委託だったものを例えば、これは三好高校ねとか。これは、東海学園ねとか。そこの学生が、この地域の子どもを巻き込みますとか、例えば伝承遊びだったら、この地域の老人会やお年寄りの方の力を借りましようとか。それをやって、周知とか地域連携になるかなと。放課後子ども教室っていうのは、どういう形で委託をして、今のところどういう依頼をされている感じですか。</p>
	<p>地域の方たちが参画していただいてというところが半分ぐらいねらいの一つにしていくところなのですけども、今の委託している業者の方で、やはり外から来た人がそういう地域の人材の掘り起こしというのはなかなか難しいのでそのあたりは市の方が介入して、行政区長さんであったりだとか、今年度北部小学校と天王小で実施したもんですからその地域の行政区だとかそういうところに行ってお願いをしたりして、学校の方でも探していただいたりとかいうことで講師になってもらえる方の掘り起こしは行っているところです。そういう協力もしながら、一応委託事業としてやっているんで、あとは場所の関係が</p>

<p>大村委員長</p>	<p>ありますね。どこの教室がその日は使えるのかなとか。そういうことを、一応業者の方で1か月分のメニューを考えて、学校の方と調整をして、それで父兄の方にですね、来月はこんなメニューでやりますので参加する日を教えてくださいということで日々の活動をやっている、そんな流れで進めています。</p> <p>業者はそのNPOとかそういった使命というか、そういうものを持った業者さんですか。ミッションといいますかね。そういうノウハウをもっている会社だけど、その地域の団体とか、中学校高校との繋がりはない。それを作っていただくことはできないのですか。今地域にはいらっしやらないのですか。</p>
<p>木戸教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>事業所としてはそういうになるが、実際に働いていただくスタッフは地域で募集をして関わってはいるが、指導に当たっていただく方は別で掘り起こしていかなければならないので、そのお手伝いは市で行っていかねばならない。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>本当はそういうコーディネーターをされる方が地域にすることが望ましいですよ。</p>
<p>木戸教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>歩調を合わせて進めていくところまで将来的には目指しています。みよし市でこういう子育て支援とかにも関わっているグループはあるが、NPOまではいたってない。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>本当は多分NPOぐらいのところがあって、委託ができるといいですよ。日進市がそうですね。子育て支援のNPOは一つですけれども大学もう一つは、民間の保育園なんですけれどもそこに委託をする形でいろんなことを依頼しているの、本当であれば、NPOが育ててくれて、そこに委託する形で、地域もよく知っていて、繋がる術もあってみたいなのが、将来的にはすごく理想なのかなと今聞いていて思いました。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>こども食堂をやっているNPOがあると聞いていますけどね。みよし市は。ないわけじゃないと思うんですよ。1度、NPOの方が僕のところに来てくれて、学習支援もこう考えているがどうだろうかという話をしたことがあるので、多分子育て支援もそういうお話があれば、考えていただけるんじゃないかなと思いますね。でも地域学校協働本部に任せていくというのは一つのあり方でそれはそれで大事かなと思いますけどね。</p>
<p>木戸教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>NPOを育てる支援とか、そういった部分もやっぱり同じように進めてもう今回、放課後こども教室のことに限っては小学校の課外活動がもうなくなってしまうということで、もう早く、とにかくその場所を作ろうというふうで動きましたので、そういうところもあってですね、そのNPOを育てるだとかというよりは、もうとにかく場所を作ろうということで委託業務へということで、来年度から全校で開始する、そういう運びで進めて行きました。</p>
<p>大成学校教育課主幹</p>	<p>ありがとうございます。保護者の立場ではどうですか、家庭支援今の放課後こども教室なども今方向性を話してもらったんですけども、保護者としてはどういうふうな思いですかね、宮崎さんからの方がいいですかね。</p>
<p>宮崎委員</p>	<p>放課後こども教室っていうのが、今日初めて、すいません、聞かせてもらった事業で児童クラブというのは長女とか利用させてもらっていたので、その存在はよく知っていたんですけど、その放課後こども教室というものが、ある程度どういう取組か</p>

<p>木戸教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>というお話の中でわかるんですけど。その利用される方は、実際共働きで、みんな下校する時間内にはうちの人がいないから、その児童クラブを利用しているような子が使う場所という認識でいいですか。このこども教室というのは、違いますか。</p> <p>児童クラブはそういう形で保護者の就労を手助けする子育て支援のための政策です。こども教室はそうではなくて、もうこどもたちを地域全体で支え、育てましょうということで体験教育の場ということで進めますので、働いている、働いていないということではなくて、放課後の時間を使って、そういった地域の人がやってきているような体験活動ができる。ぜひそういうのに参加したいという児童が参加してもらいものになります。定員を設けているけれども、一応そういう希望者で参加してもらい。そういう形で進めています。</p>
<p>宮崎委員 木戸教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>基本定員以内であれば、参加できるというものです。</p> <p>はい。それにまたひと月分の今週はこういうことをやりますとかこの日はこういうことをやりますとか、あらかじめわかっているんで、興味のあることには参加したいけど、これは参加したくないということで選ぶこともできるような形で行っています。</p>
<p>宮崎委員 大村委員長 木戸教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>時間的にはその小学校が終わって、遅くならない時間までという感じですか。</p> <p>毎日はやっていないですか。</p> <p>児童クラブとの兼ね合いもあってですね。児童クラブが実は待機が発生しているような学校もあるものですから、先ほど2校先行してやりましたというのはそこなんです。児童クラブの待機児童がいるところで先行して、居場所を別の場で確保し、5時まで預かってもらえばいいよという家庭だったら、児童クラブでなくてもこども教室でもできるものから、そこを先行して、そこはもう、毎日、月曜日から金曜日までの毎日ですね。今度拡大する残りの6校に関しては、待機児童もないので、そこまで児童クラブのような機能はそこまで必要ないかなということなので2日に1回で始めます。</p>
<p>宮崎委員</p>	<p>うちは3人兄弟なので帰ってくれば、みんなそれはこどもたちが勝手に遊ぶんですけど、例えば一人っ子の世帯の方とかとそれこそ地域の方、みんな育てるというキーワードが最初にあったけれども、その地域の方もそこに来て何か教えられますよとか、話ができますよというのがあれば、その方も自己肯定感もちろん高くなるし、あとはそこに来る子どもたちを一人っ子であれば、人との繋がり、同い年の先輩、後輩とかあると思うんですけどそういった人との繋がりもできる場ということで、何かすごく自分と知らなくてすごく何かもったいない気持ちもあるんですけど。そういう放課後こども教室というのも、多分宣伝をしてもらっているんですけど、僕は多分周知できてなくて、もっと僕も広めていこうかなと思うんですけど、何か。この周知の話題を先ほどあったので、同じようにこども教室についても、広めてもらえると。親、子育て世代もそうだし、地域の方もそういう場があるんだということを知ってもらえれば、自分はこのことやれますよということで、お互いウインウインでいけるのかなというのは思いました。ありが</p>

成瀬委員	<p>とうございます。</p>
大成学校教育課主幹	<p>放課後こども教室ですが、私は確か学校からもらってきたお手紙の中の一つに入っていたなと思って。でも、私の仕事関係上、ちょっと難しいかなと思ってほとんど見ずにいたけれども、後日、中部小学校に通っている親御さんと話した時に、いや行ってみようかと思ったんだけど、天王小学校ってすごく道が狭いし、ちょっと送り迎え難しそうだよねって。だからやめたっていう声を聞いて。確かにそうだよねって。うちは全然歩いても行けるけれどもそうじゃない学区の子どもだとちょっと難しい。難しいというか。ちょっと尻込みしちゃう。そういうのはちょっとあるかもしれないです。</p>
大成学校教育課主幹	<p>地域を巻き込んだ家庭支援という意味では、この放課後こども教室は有効なのかなと今聞いていて思うんですけども、やってみてまた課題が出てきてそれをビルドアップしてくるところが必要になってくるかなあとは思いますが、そんな方向ですかね。</p>
林委員	<p>お話聞くと児童館機能と似た感じかなと思う部分もあるし、もっと広い地域のということもあるのかなとは思いますがそこら辺で共存というのか。一緒に何か取り組むとか、もう本当に多分市役所の課が別々なので、お互いという形になってくのか、そこら辺はどうかなというのは思ったんですけどどうですか。</p>
木戸教育部次長兼 学校教育課長	<p>そうですね。やっぱりある以上差別化というのですかね、それぞれの特色が出ていくといいのかなと。児童館は児童館でやっぱり地域の児童厚生員さんがいて地域の児童が、いつでもね、児童厚生員さんが迎えてくれるということで、友達と一緒に遊びに行って、好きな時間に帰ってくるという、そういう便利さがあるでしょうし、こども教室の方は先ほどから言っているように、地域の方にも参加してもらって、本当にここはこちらの腕の見せどころだと思うんですけどいろんな体験ができるその中で子どもたちがいろんな学びを得てもらう。そういう場所にしていきたいと思っておりますので、それぞれの場所、いろんな場所があって子どもたちが選択できる。そんなようなことで差別化ができていたらというふうに考えています。</p>
渡辺委員	<p>ずっとこれで申し訳ないですけど、放課後こども教室で体験されて、利用者からアンケートみたいな取ったりはするんですか。</p> <p>何かそのフィードバックがまたあったりしたりその様子も、子どもの顔がバチッと映らないものの様子がちょっとなんかね、フィードバックできると何か面白そうじゃんというのがあるのかなと思うのと、あとこれもしかするとここがワーツと活発になった時に、塾の二番煎じじゃないけど、そんな形もできなくもないかなというのは嫌だなという気がするのと、やっぱりここはこどもたちの健全育成みたいところで、みよし市が大事にしているところを意図的に打っていくというのは必要なのかなという気がするのと、やっぱりスポーツと音楽みたいな話があったかと思うんですけど、例えば、この中にも出てくるその個別支援が必要な方、発達障害だったり、あとダウンちゃんだったり、あと不登校ぎみであっても、何かこう体を動かすことが</p>

大成学校教育課主幹

大村委員長

好きとか何か別に上手にしないでいいけど、みんなとリズムに乗って何かするとか、歌わなくても聞いているのが好きという子がもしいるとしたら、三好高校のスポーツ科学科の子たちのいろんな専門性で、関わりながら、体を動かす機会というのは、何か陸上部以外にもたくさん打っていても面白いのかなと聞いていて思いました。

学校だけじゃなくて、やっぱりこういったところも含めて、子どもたち、年齢、さっき聞いていてね、世代にもよるなと思って。小さい子もいれば中学生まで幅広く自己肯定感を高めるといいう上では、これは多分、小学生の子の自己肯定感とそれに関わる地域の方の、自己肯定感、将来的にということでも有効なのかなあとありますが、それ以外はどうですか。違った視点でこういう課題がないかなあとか、こういった取組やると自己肯定感や家庭支援に繋がる、先ほどからも対話とか関係づくりっていうところもちよっとキーワードかなあとってはいるんですけども。その辺ではどうですかね。

最初の話題のみんなで育てるということに関わるのですけれども。成瀬さんがおっしゃっていたこと、すごく大事だなと思って。言葉でみんなで育てると言ってもその実態がなかったら、あるいはそれを感じられなかったら、いくら周知しても意味がないですよ。だから、実際にみんなで育てるといいう現場をどうやって作っていくかということがやはり大事なと思うんですよ。僕が、豊田市の方でね、お話を聞いたときには、町内会単位にね、3月かな、就園前の子どもたちに呼びかけて、お花見会を町内会でやってくれて。そうすると、そのこどもとその親が町内会デビューできると。そこで繋がりを作っていくのだということと、もう一つはその町内会は、公民館みたいな、公民館と言っても条例上の公民館ではなくてその集落がもっている公民館で、そこを子どもの遊び場にして、その見守りの人が交代でそこに入ると。老人会っていうかお年寄りの人も、それから時間のある保護者の方が順番に入って、こどもの見守りをするんですね。年間を通してそういう地域の人たちと子どもがこう繋がる場所を作っているというのがとてもすてきななと思って、勉強になったんですけども。同じようなことは、名古屋市ですけども、この児童館に、うちの学生実習で受け入れてもらっているんですよ。その中である児童館は、出前というかアウトリーチですね、児童館の建物を出て、地域の児童公園に行くんですね。その地域の児童公園の民生委員さんとか児童厚生委員さんと協力して、その公園の見守りというか、プレーパークですけども、子どもたちにいろんな遊びの支援をしたり、あそこでちょっとたき火して、御餅を焼いたりとか、そういうちょっと軽食を提供したりする中で、そこでも地域の人たちと子どもたちの繋がりを作りながら、ちょっと気になることも心配な子どもの見守りをしていくっていう。そういったことをしているんですよ。だから、保護者だけじゃなくて地域の人も何か参加できる、何かこう十分できることないかしらって人にその見守りだけだから基本的には居ればいいのですよね。困った時に助けてあげるとか、おしゃべりをね、ちょっとするっていう。そんな感じで日常的な積み重ねをすることが、何かみんな

	<p>なで育てるっていうね、そういった時間を作ってくれるのかなっていうふうに思っているんですよね。だから、例えばみよしでもそういう、子どもの遊び場、身近な遊び場或いは放課後の学校の運動場でもいいんですけども、そういうところを子どもの遊び場にしてそこに大人が見守るで入るっていうかね。なんかそんなことができるといいかなというふうに思って聞いていたんですけどね。</p>
<p>新美教育部参事</p> <p>山田委員</p> <p>春山委員</p> <p>新美教育部参事</p> <p>宮田委員</p>	<p><Bグループ後半協議></p> <p>後半、他の項目についても考えていきたいと思っていて、大きいのは、ICTの関係かなと思いますが。実際今 GIGA スクール構想で小中学生 1 人 1 台タブレットが入って 3 年ということもあって、メリットもあるし、逆に今使っていてやりにくさというか、その使用するタイミングだとか困っているかと思うんですけども、成果と課題今までやってきた感じはありますか。</p> <p>まず 3 年間で、先生方の中で、授業の中で、タブレットを使うことがもう当たり前になっていて、特にグループとか個々の意見を集約するときに、本校だとオクリンクを使ってやるとか、あとは学年で何か、今も 6 年生を送る会の練習をしているんですけど、そういう音楽を流したりとか、動画を流したりするのもタブレットとか、あと電子黒板を繋いでやっているということでみよし市が早くそれを導入してくださったおかげで、本当に必要な時にすごく活用していて、今のインフルエンザでも長期休んでいる子たちも、授業を配信するということがタブレットを置いて、本当に配信する意味のある授業は、道徳とか算数とかの授業は当たり前のようにやれるようになってきたので、それが成果かなと思っています。課題としてはやっぱりそれをどうしてもいたずらに使っちゃったりとか家の持ち帰りをやっているんですけど、そうするとなかなか家で、時間が守れなかったり、手から放さなくなったりということがあり、保護者からは、持ち帰りはさせないでほしいって声もやっぱりあります。</p> <p>保健室登校の子はドリルの勉強に役立っていることと、教室に入れない子は教室の授業の配信を別室で見ながら勉強していることができています。課題は、やはりどの教員も同じようになかなかいかず、それぞれの教員のスタイルでやるといいなっている人もいれば、普通の授業がいいっていう人もいるので。一概に週 3 回使用する割合 80% っていうのは、目標として厳しいなというのが正直なところなんです。確かに挿絵とチョークで子どもがわくわくするような授業をする先生方もみえるので。</p> <p>どんどん今進んでいますので。自分が、多分使えないだろうなど。そのうち自分のスキルが多分追いついてくるかもしれませんが。中学校はどうですか。</p> <p>やっぱり、コロナ禍の時ですが、生徒が授業中にみなだまっているけれど、それぞれの意見をアップする場所があって、それを見合って学び合いに使えていた場面を見たときに、すごくよかったなと、今ですと、ペーパーレスが一気に進んだものだから、紙の無駄にならないし、あと教員の仕事軽減に繋がりました。また、面接練習で子どもがタブレットを使っています。何をしているのかと生徒に聞いたら自分たちの様子を見て家庭</p>

	<p>に持ち帰って練習するとか。授業の中でも先ほどから出ているんですけど、どの先生も当たり前のように使っている家庭学習でも、本校ではある会社のものを使っているものですから、それを普通にやるもんですから、変わったなという。あと、いざというときに、学級閉鎖があったり、そのようなことがあったりしたときには、オンラインの授業ができるということが、すごくありがたいと思います。課題としては、昨年2件ほどあったのですが、子どもの顔と名前をアップして拡散してしまったことがあって、それは指導して、それから起きないようにしているのですけれども。</p>
<p>新美教育部参事</p>	<p>児童生徒の中には自分たちよりもスキルが長けているような子がいて、セキュリティをかけてはいるんだけど、それを掻い潜ってやれちゃう子もいてウイルスとかねイタチごっこみたいな感じなんですね。それにちょっと近いものがある。そのたびに、その学校からこういう報告し、カットするような手段で進めてはいるんですけども、学習支援の一つのツールということで、特に今現状不登校の配信とかでというのは、ときどきちょっと学校を休んでしまっている場合に、学習に関するサポートは何かないんですかという声もあるもんですから、小中学校が全部やれているのであれば全然いいと思うんですけども、中にはもうちょっと、なかなかそこまで手が回ってない学校もあるのかなというのは現状としてあるのかなと思います。今話を聞く限りではやってみえるのかなという感じですが。市内各校の状況は確認するべきだなと思っています。</p>
<p>山田委員</p>	<p>機械なので、どうしても不具合は起きる。起こった時に詳しい人がいるので、例えば何か配信をつなげたつもりだけど、配信が始まっているはずなのに、何も流れてこないのだけどという連絡が来て、私がオロオロしていたら詳しい人が対応してくれるんだけど、その人はずっといるわけでもないで、やっぱりサポーターの方も来るんですけど、常駐すると安心できる。あと、その場で一気に使うと、全校いっぺんには多分やれないと思うのでそこは心配している。</p>
<p>新美教育部参事</p>	<p>今ね ICT の支援員さんがいるけれども、頻繁に訪問しているわけではないからやっぱり何かあったときに、リアルタイムで対応できるかっていうとそこはちょっと課題かな。</p>
<p>山田委員</p>	<p>授業参観で、タブレットを使いたいけど、3クラスは一気に使うと無理って言っている。</p>
<p>平尾委員</p>	<p>同じことが高校でも起きているけれども、少しずつ補強してもらってね。フロア広く使えるようになってきているということも水面でやっぱりもっとよくなっていくと思うのでそこははずれ解決していくことかと思います。うちなんかにも言っているのはどうしてもみんな使い出すと、やらなきゃいけないという気持ちになって、タブレットを使うことが目的になってしまうっていう部分が非常に今心配をされていて。教科の特性もありますから、効果があがるものはどんどん使っていって無理に何でもかんでもではないですよ、逆にちょっとしたストップをかけたりしています。準備だけに時間をかけて、それはタブレットではなくてもできることもしている場合もあるのでその辺が整理できていない部分が高校には課題としてある。春山先生が</p>

新美教育部参事

近藤委員

おっしゃるように、別にタブレットではなくても、教員のチョークだけでも上手に教えられる場面もあるので。その辺の使い分けはこれからかなと思います。小中学校では、家庭で通信環境が整っていない子とかはいますか。

貸し出しのルーターを使って対応しています。ルーターを市で契約していますから、一応2年前かな。2年前に、その家庭にそういう環境が整っていない数を明確にして、そのすべての家庭にいきわたるような数は確保してはいる。12小中学校が同時に使うことはないので、その時に必要な台数を確保しています。

個人的な意見ですけど。まだ1人1台配られてから数年じゃないですか。これが歩くのに車が当たり前というのは何十年かかったって世界だから、もうどんどん何でもいから使ってみて10年か20年したら、ここはいいけどここは駄目ねっていうのは自然とかわかるような気がするんですけどね。まだそんなに使う前にこれはどうであればいいという時代ではなく、何でもめっちゃくちゃやってみれば、これは駄目、これはいいってわかるのでそこまでまずデータをやりこまないと、まだどうのこうのっていう時期ではない気がする。まずはだまってやってみようというのが大事ではないか。失敗も30か40やったら、どっか上手くこう逃げる道も見つかるだろうし、1回や2回の失敗では試行錯誤とは言いませんよね。いつもNHKの何ですか。夜やる番組。皆さん見ませんか。7万円でどんだけ、トヨタ自動車とか東京大学がみんなその予算の中でどれだけ変わったかをアイデア出しまくって失敗しまくって試行錯誤しまくっていくけど、本番で大体駄目になるような。1回の成功のためにどれだけ失敗があるか、まだ失敗していない段階でICTの活用がどうかもっと黙って使おうって僕は思ってる。だからどんどん恐れず使おうというまだその辺のレベルなので、もういろんなところでどんどんやってみればいい。こどもたちの方がもっと適応能力が高い。先生がたが恐れるために、こどもたちの適応能力をかえって削いでしまう。探りながらどんどんやっていくべきですよ。不思議に勝手に探りながらやっていく能力というのは、大人は敵わないと思いますよね。使うために出したら、使わない子どもっていませんよね。何かそれなりに自分で何かやっても、今日の課題からずれてきたら、そこで先生が一言言えばいい話であって、少なくともまだ1回目のリースが終わってない段階でどうのこうのって自動車があれだけ今みんながもう当たり前に何年かかったかっていう話です。やっぱり片っ端から使ってみると、こどもたちもこんなふうにするし、先生方も、中学生なら今、自分の意見を書き込まなきゃいけないので、それがみんなアップされていくと、自分が一生懸命書いたやつがぱっと見ると、自分よりもよいのが出てくると、くそみたいな、こういう観点もあったかとか、一斉授業でやったら、どっちかといういつも自信のある子の意見を先生が黒板に書いて終わるじゃないですか。あれ、全員が必ず自分の考えアップしなきゃいけないから面白いですね。こどもの表情を見ると学校に行かせたときに、自分の考えがアップされる授業はいいけど、資料提示だけで使っている場合はあんまり興味ない

	<p>ので、本当に自分の考えをアップしなきゃいけないのではないかと。自分たちの考えを広げる、それから1人しかいなかったけども何とかちゃんが言ったような意見を出して、だけどこれは絶対これは俺のオリジナルだと思うだとか。そうすると、もうちょっと子どもたちがいろんな意見、みんな違う意見をもっているんだ。ちょっと何かもうちょっと自己肯定感を高めることにつながるのではないかと。みんな違っていいんだという意味がそれぞれ違う意見で分かる。</p>
<p>新美教育部参事</p>	<p>自分が当然一つの課題に対して自分の考えをもつことは大事だと思うし、学び合うよさというものが自分の考えはもちろん他の人の考えを知って自分の考え、プラスアルファ、なるほど、そういう考え方でもう一度ちょっと自分の考えを再構築し直すという機会もありますし、すごくそういう意味では、学び合いというのは大切だと思うしそれをするための一つのツールとして、みんなの意見を集約できるっていうことはあるわけですが。利用価値の高いものであると言える。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>あれがなかったら今まではみんなにホワイトボードを書かせて、全員のホワイトボードを並べなければならないとか、すごい手間ですよ。でもタブレットなら一斉に考えを見ることができますよね。会社によって同じ意見までAIでなんかやっているソフトありますよね。同じ意見をまとめてくれたり、グルーピングしてくれたりするものも。だから、こどもたちの認知は、このタブレットでしかできないと思うけど、なかなかやってくれない先生たちもいるので、ぜひそれは学校も進めているところではありますので、ぜひそういうよさを生かすような研究を学校でも進めたいと思います。</p>
<p>新美教育部参事 近藤委員</p>	<p>あと、ICT関係で課題かなと思う面はいかかでしょうか。今、一つはそのハード回線がという点がありましたが、これもう1個今日やっぱり問題になっていたのは新聞で出ていたけど、検索履歴を今までどこでもちゃんと先生が見られるようになってるんですよ、必ず導入していると。それはこっちの何とかをのぞけるあんな怖いやつはいけないという話になっていましたが、僕に言わせると、あんなインターネットの怖い世界を子どもたちが勝手に僕のカウンセリングに来る子で、もう検索にはまってもう地獄に落ちている子もいる。少なくとも大人の意見が理解できるにはかなりの知的がないと正確に理解できないけど、こどものこんな狭い知見で考えていると何かそれに影響されちゃう可能性もある。そんなことがあるかもしれないと思うけど、それしかないように取られているけど、あんなのはもう親が必ずおかしいサイトとかを見るなどか、そんな意見はおかしいと親が一言、言ってくればいいけど。結構それはかり放しになっていて、結構やばい世界でカウンセリングを行う状況になってしまう。だから僕は、あれは検索履歴っていうのはきちんと文科省が、未成年の子どもが、悪魔の巣窟みたいなインターネットの世界で勝手に行くなんてとんでもないことだって、文科省は言えればいいと思いますが、マスコミが飛びついてこういう意見もあるって。検索サイトは非常に危険なサイトだし、クッキーによって変な18歳未満お断りみたいな広告が、こどもの世界にバンバン表示するんですよ。そんな世界に小</p>

	<p>学生が入るといふ。1回クッキーで入るとずっと表示されるんですよね。再インストールしない限り履歴が取られているので、個別の世界、検索サイトの世界は危ないってわかるが、情報モラルのところは本当にしっかりとやらないといけない。あれが十分にされなくて、日本の教育に入ってきたので、特に携帯もそうですよね。さげサイトの話も、僕なんかさげサイトが1日に20,30ぐらい入ります。メールアドレスが取られたんですよね。どうやってとらえたかって絶対わからんけど、自分の仕事で使わないメールアドレスもどっかで取られてそこにも、迷惑メールが3つも4つも入ってくるんですよね。</p>
新美教育部参事	<p>保護者が携帯をもたせるにしても、ちゃんとやる人はセキュリティをかけたとしてもそこまでもう関与しないという家庭も出てきている。</p>
近藤委員	<p>もう保護者教育、情報モラル教育は、教育委員会が率先して、もっと力を入れてもいいように感じる。はまる子は10人か20人に1人ですけれども、それにはまった子がカウンセリングに来るだけけれども。親と最初の学校の使い方の指導がしっかりしていれば、そんなことにはならなかったのかなと思います。多分学校にはそんな、そういうことが起こっているという多分情報入ってないと思うのですが。</p>
平尾委員	<p>高校だと携帯はみんな持っています。今話題に出た詐欺の話なんかも毎年新入生4月に警察から来てもらって話をしていますけど。先ほど話になって検索履歴の中でやっぱり、特に中学生もそうかもしれませんが自殺予防の観点から、そういう情報は、学校はもういち早く、手に入れていきたいなと思います。自死願望みたいな。その時私はそれを一番感じました。情報が飛んでいます。</p>
近藤委員	<p>大人が見たら絶対嘘だよって世界が、こどもってすぐ信じてしまいますので。親が常識的に違ふとわかっているけど、こどもはもうすぐインターネットで書いてあったとか言って。</p>
新美教育部参事	<p>情報モラルはもちろんだけど、いっぺんには難しいですけども、その取捨選択能力もそうですよね。</p>
近藤委員	<p>一応入った情報をすぐ下手したらそれをそのまま友達に送ってしまう。本当に今、災害起きてても偽情報がいっぱい出ているように、ひどい大人は、それを楽しむ人たちがいるので、わざとやる人たちが世の中にいっぱいいることを教えないといけない。だからインターネットの世界は悪意に満ちた世界であること。ICTの活用の前に僕は、やっぱりそこは学校教育でしか、家庭教育で親がやれと言っても、9割は難しいかなって。</p>
新美教育部参事	<p>どのようにまたに対して力を入れていくかということは教育委員会でも相談させてもらいたいと思います。実際タブレットがこれ浸透してきて、多くいろんな学校からこういうアプリがあると授業がしやすいっていう、申請して入れている。またぜひ学校の方でも教科によって、全然違うと思うのですが、できれば無料のアプリが多いんですけど、そうすれば教育委員会で一斉にどんと入れることができるんですよ。ぜひそういった授業で活用できるような、申請していただければと思います。</p>

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹

富樫委員

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹
大地委員

<Cグループ後半協議>

後半もということですが、他のグループでもいろいろなところから話をさせていただきました。それであと、今日の資料の中でも、もう1回戻っていくと、自己肯定感を高めてウェルビーイング、自分の幸せ、周りの人も幸せに繋がるような手だてっていうかね、そんなものも考えていけたらいいのかなっていうふうにも思っています。今の前半の部分でもかなりそれに関わるようなこともたくさん出ていたんですけども、次回の策定に向けての何か改善案ですとか、そういったものもいろいろ出していただけるとありがたいなと思います。

先ほどの資料から令和4年度の学識経験者による意見を取り上げて説明されましたけど、前もって配布していただいた令和5年度の学識経験者の意見等踏まえて、とても私はぜひこれは、もう進めていって欲しいなということが1個あって、学識経験者による意見2の愛教大の中山先生が、令和4年度で、資料館の在り方検討会のことに対して述べてみえますで、その時には大規模改修も視野にといいところで述べられていましたが、今年度の分はもっとさらに掘り下げてくださっていて、歴史民俗資料館の資料館の在り方検討会について、ただいろんな大切な資料を収めておく資料館だけではなくて、資料の6ページのところの下の方ですけど、資料館の中で活動できるというところが書いてあったので印つけてきたのですが、各種体験事業はやはり一番子どもたちにも関係してくることなので、資料館の有効活用として、視野に入れて、今後進めていっていただきたいということを切に願っております。以上です。

関連してでも結構ですが続けていかがでしょうか。

私が今日の会に向けていろいろ見て気になっていることですが、家庭教育という言葉がたくさん出てくるんですけども、私ちょっと調べたんですね。子育て支援と家庭教育って言われている部分があって、子育て支援についてはこの会でもたくさんこのプラン。作戦1、2、3、4、10と子育て支援って書いてあるんですね。今日の要項の一番初めのところを見ると、Aグループは子育て支援、Bグループは学校教育、Cグループは、生涯学習、社会教育、地域連携ときて、家庭教育というのは、どういうふうこれから考えていったらいいのかなということちょっと疑問に思い、家庭教育っていうところをどこでどのようにやっていくか。これからちょっと考えていかなきゃいけないんじゃないかなということを感じています。先ほどから広報の話も出ていますけど広報の今年の令和6年の重点施策のところ、読んで気になったんですけども、安心して子どもを産み育てられる環境にしようというところで、子育て支援と家庭教育っていうふう銘打たれているんですね。2番の心豊かな子どもを育てようところは小中学校教育となっていて、家庭教育でこうやっているところに出て来るとは思いますが、家庭教育は何かっていうところを考えたときになかなか家庭に踏み込めないって話も6月の会に出ていたんですけども、対象が保護者であって、家庭教育として求められているのは何なのかなという、保護者は何を求めているのかなとか、ど

	<p>ういうことをやって必要なのかなとか、家庭教育という言葉で割とザッと使うんですけども、家庭教育の中身って何を私たちは考えていいのかなっていうところを、次の計画に向けてもちょっと考えたり、プランの中の家庭教育はどこに位置付けたりしているんだろうっていうところでいったときに、今日のこの分けるところもそういう言葉が出てこなくて、誰がどこでどのように考えていくかというところが、これから必要なんじゃないかなということ、今回に向けてちょっと感じているところ です。以上です。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 大地委員</p>	<p>ありがとうございます。ついつい言葉として使いやすく使ってしまうんですけども。そうされると、答えにくいっていうところはあるな。</p> <p>社会教育の中ではあります。社会教育では、家庭教育学級をやっていますよとかで言葉が出てくるけれど、それだけでいいのかなっていうのも思っているところです。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 富樫委員</p>	<p>僕らも地域連携って割とコミュニティ・スクールとかあるので簡単に使ってしまうんですけども、実際にお願いするとなった場合、協力していただける方もいるんですけども、それがどうしても一部の方に限られてきて、ついつい頼りにしたくなる方について何度も頼ってしまうっていう現実もあり、本当はでもそういう何かもう、そういった協力していただければ広げていきたいな増やしていきたいなという。そうしないと続かないっていうところもあるものですから、いかにそういった人材を確保し、あるいは育てていくっていうんですかね、そういったことも必要になるのかなっていうのは思うんですけど、その辺りでいかがですかね。</p>
	<p>三好中で今年、中学3年生に対して、家庭科の授業ですけど、未就園児とその親御さんに来ていただいて、各クラス1時間ずつ学習した授業があったんですけど、それに未就園児を連れて来てくださる方は、ベテランの方が来てくださったからすごいスムーズに保育士さんとか、助産さんとか、そういう方が3か月ぐらいのこどもさんも連れて来てくださって、ただそれに対して、お手伝いする人がコーディネーター3人だけではとてもやれないので、もう少し、1グループに2人は必要だから、10人ぐらいは欲しいなということで、いきいきクラブさんにあたって1人の方が新屋のいきいきクラブさんにあたって、5、6人に来ていただいて、私の方も、過去を振り返ってちょっと向いてそんな人3、4人。無理なく来られるように、それが二日にわたってあったものですから、二日とも来られなくてもどこかのその時間だけでもいいということをお願いしたら、結構入っていただきました。本当にこどもさん連れてきてくださった人が2人かな。2人の方で1人ちっちゃい子でまだおっぱいを飲ませなきゃいけない子。そのあと、上の2歳ぐらいのお姉ちゃんを中学生にさわらせたりとかして、体験してもらっている授業ですけど、そのちっちゃい子をあやすのがそのボランティアさん。本当にボランティアでもいいですっていうことを念押しして、全然いいよ、全然構わないよっていう方に来ていただく。だからそういう人を探す努力はやっぱりしておかなきゃ、日頃からやっぱり、これからも同じ人ばかりではなく、1人が来られなく</p>

	<p>なった場合、また違う人というふうにやれるように、アンテナをいっぱい立てて、どこにどういう人がいるかっていうのを見ておく必要が、私でもまだそういう勉強していかなければいけないなと思っていますので、大変なことですけど、やったかいはあると思いますので、やって皆さんすごくよかったって、ボランティアさんは、楽しかったわって書いてくださいました。</p> <p>あと、書写の方も入らせていただいて、4人ぐらいで、南中と三好中に1人が2、3回ずつは入ってくださったと思いますけど。</p>
鈴木睦子委員	<p>やっぱり、人と人をつなげるコーディネーターの役というのはすごい力があると思います。すごい参考にはならないですけど、歴史在り方検討会で進められていると思いますけれども、愛知大学の跡地のところにある有名な史料とか、黒笹の史料とかあの辺一帯が公園緑地になる計画もあるみたいで、その辺を一体化してその歴史につなげられるでしょうか。</p>
橋本歴史民俗資料館長	<p>資料館の橋本です。なかなか難しいところですけど、確かに黒笹から福谷にかけて、福谷だと福谷城があつて、27号窯があつたり、その先に黒笹の95号窯があつたりというところで、一応今一般公開しているんですけど、なかなか道が整備されてないとか、場所がわかりにくいというところの意見もいただいたりだとか、福谷城も「どうする家康」で一時的ちょっと盛り上がったんですけど、やはり駐車場がないとか現場所がわからないというところがあるんですけど、やっぱり市の資料館としてはPRしていくんですけど、どちらも市の土地じゃないというところもあつたりとかして、あとそちらの資料館を今後どうしていくかという中には、北部の方だという意見を言われる方もたくさんみえますので、その辺も含めて、資料館だけでなかなか作るっていうのは難しいと思いますので、福谷・黒笹方面の整備に合わせて、何か複合的なものができるといいなという、おぼろげながら思いはあるんですけど、なかなか今施設マネジメントの考えで、みなよし交流センターの件でいろいろ新聞報道出たりというところもあつたりとか、一方で今体育館も大規模改修やつたりだとか、サンライブはまだ新しいといっても10年経ちますので、給食センターもそうですけど建物に10年20年すぎると大体悪くなってきますので、維持管理費がかかるというところで今問題になっている部分もあるので、昔みたいに物をつくればいいっていうだけじゃないので、先ほど、在り方検討会のお話を富樫会長に紹介してもらいましたが、どういうものを求められているのか、今後どうしていきたいかというのを、市民の皆さんの意見を聞くことが一番重要になると思うので、その辺を踏まえて今検討は進めているところですけど、なかなか具体的に答えられませんが、北部というのはそういった歴史的なものが残っている重要なものがたくさんある場所だということですので、その辺は活用していきたいということと、今ある場所についても引き続き、借地だったり、トラック協会さんとかも好意的に協力していただいていますのでそういった環境は繋いでいただいたりして、資料館としてはなるべく多くの人に見ていただいて、そういった市民の方、皆さんから歴史や文化について、気運が高まっていくとさらにいいなという思いがありますので、またその時には皆さんご協力をいろいろい</p>

<p>富樫委員</p>	<p>ただきたいとは思っております。答えになってないかもしれませんが、活用という意味では重要な場所だという認識は市としてもしておりますのでまたよろしく願いいたします。</p>
<p>橋本歴史民俗資料館長</p>	<p>いろいろな方の意見を聞いていただけるんですね。もちろんそうじゃないと偏ってしまつて。福祉だとか、学習する場でもあるので。一学級は入るぐらいの場所があるといいですね。</p> <p>今年度に入って、保育園とか小学校の子が来てくれるんですけど、やはりちょっと狭かったり、段差があったりだとか、階段ですし、障がいのある方だと2階が一応あるんですけど危ない部分もありますので、そういったところは今検討進めているところですよ。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>結構社会科の中でも、小学校3、4年生でいろいろ地域のことについて学んだり、後は6年生で歴史について学んだりという中で、実際に黒笹のことを話題にしたりとかするんですけど、知らないことが多かったりしているとそんなふうなのとかいって、興味をもったりとか、行ってみようかなというふうになったりすると思うので、何とかそういったところに火をつけられるような取組ができたらいいなと思いますけども。</p>
<p>鈴木睦子委員</p>	<p>さっきの三好中の体験は授業ですよ。先生たちと協議をして計画を立てて行ったんですか。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>家庭科の先生からの要望で、こういう授業をやるということでコーディネーターに声がかかって人をこれだけいるから、日にちもぎりぎりになって決まって、ちっちゃい子に対する保険が結構大変でしたが、生後3か月のお子さんも来てくれて。でもね、育てる人がよくわかって育てている人のこどもさんだから、中学生が保育園に行つて、保育園の子たちと触れ合う学習は1年に2回しているわけですが、そこで見せた絵本をその未就園児に読んで聞かせるんですけど、まだ3か月の子でも、目で文字や絵を追っていくんですね。こうやって。今の子は成長が早いんですよ。栄養がいいんですかね。</p>
<p>内田委員</p>	<p>そんなことないですよ。私は、豊田市でブックスタートのボランティアを長年やっていたんですけど、3か月健診で絵本の読み聞かせをするんですね。本は決まっています、赤ちゃん専用の月齢に合った絵本を選んで紹介するので、ブックスタートはみよしでもやっていますけども、その本をプレゼントするんですよ。プレゼントする本を決めてもらってこれを読みますと言って、聞いてもらうんですけども、笑うんですよ。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>うれしくなっちゃってね。ちゃんと手をたたいたりしてね。あれでびっくりしちゃって。中学生の男の子って声が意外と低くてトーンが低くて、大きい声で怖がるかなと思ったけど、全然そんなことなく。それこそ、五感を使って授業しているというような。感動しますよね。これはね、最初、教頭先生とか、大丈夫かなって心配してみえたみたいですよ。</p>
<p>内田委員</p>	<p>豊田市も前から、中学生の赤ちゃんの授業みたいなのをやっています、すごく好評がいいですよ。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>ボランティアで来た人たちもすごくかわいくなって、本当にだっこをしたら、泣いていた子がねんねしちゃってね。本当にやりがいがあるって、今後も学校は続けていきたいと思っています。12月の1か月間だけ、三好中と南中のカリキュラムを合</p>

<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>わせながら誰をどこに派遣するかっていうのをやって、結構大変だったけど、学校って突然授業がなくなるときがあったりとかして申し訳ないとか言って給食食べさせていただいたりして、そういう喜びがあったりとかして。だから、やっただけ、自分に戻ってくるっていうか、私は若返りさせていただいていると思っているので、すごくありがたいです。</p> <p>こういう先進的な事例をどんどんやっていただけるとそれを他の学校で共有して、できるんだという、そういう一歩にもなるかなと。</p>
<p>大地委員</p>	<p>実物と実際に行うとか、体験するってすごく子どもたちにとっては大事なことですよね。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>これは学校の行事ですけど、大学生を呼んで、中学2年生の子が将来の学習をする。今までは高校生でしたが、それが今は大学生。それを今年、私は見せてもらってないんだけど、昨年見せてもらった時には、そのハンサムで素敵な男性のところ目はどうしても最初に行っちゃいましたが、「みよ中大学」とかいう名前で昨年から始めて、すごくいいなと思いますね。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>結構、三好中はその先輩に来てもらうということを早めからやっていて高校生ってのはかなり前から、それで大学生を昨年からはじめた。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>京都から来たとか、この近辺じゃないみたいで。何とか連絡を取って繋いでいる先生方がちょっと大変だったかなと思いますけどね。</p>
<p>内田委員</p>	<p>家庭教育って、私も本当に同感だなと思って。本当に難しいですよ。各家庭にお父さんお母さん片親かもしれないけれども保護者がいて、その保護者の背中を見て子どもたちが育てていくわけですよ。一番大きな影響を与える家庭教育だなと思うんですね。その働く姿を見せるっていうことが、ということはそれを意識するような機会があったら、うちの保護者はどんなふうにして社会人をやっているかっていうのを見る機会とか意識する機会があったらいいなって思いました。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>家族に聞き取りを行ったりだとか、どんな仕事やってどんなっていう、そういうのちのちの職業人の語る会だとか職場体験に繋がるようなステップとして、まず親へのインタビュー、なかなか見に行けないものですから、そういったこともやっているのもあるし、でもやっぱり、見られた方がいいですよ。照れくさいかもしれないですけど。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>娘が主人に対して、夜はもうお酒が入って、ぐうたらでいるのを見て、娘がそれでちゃんと先生やっているのって。お前一回学校に来いと言って。結局、見てないので、ずっと子どもに言われていましたからね。見るといいですよ。でも親の職業は嫌だっていうのは、意外と。</p>
<p>長谷川学校教育課主幹</p>	<p>Aグループ発表</p> <p>Aグループです。家庭支援のことについてグループではもう少し話を深めていきました。今年から放課後子ども教室をみよし市やっているんですが、そこが今委託ということで働いている方は地域の方が多いということなんですけど、できれば中学生とか、それから高校生とか、それから地域の人、NPOの方に関わっていただくことで、地域を巻き込みながらのこどもたちとの関</p>

	<p>係づくりや対話ができるといいかなと、それからこども教室も異学年の交流がありますので、ここでもこどもたちは関係づくりができていくのかなということで、このような形がいいのかなと。それから、児童館とか、公民館もあるわけですけども、また地区のことを紹介していただいたんですけども、公民館を地域の方が代わるがわる見守りをしてくれる。それから民生さんとかも来ていただける。子どもの遊び場のところについて地域の方が参加して、一緒に見ていただけるような関係づくりができると、地域を巻き込んだ、家庭支援というか、みんなで子どもを育てるところに繋がっていくのではないかといいところなんです。それから、他地区ではお花見会というのを3月に行って、そこで新1年生になるこどもがデビューし、地域に出てくるというデビューし、地域に出てくるという取組をされているということを教えていただきました。それから、せっかくこのような放課後こども教室みたいな取組をしているので、ぜひアンケートをとって、地域の方にフィードバックして、またフィードバックする時には、先ほど出たような、見て行きたくなる一緒にやりたくなるような、また発信の仕方ができるといいということでした。それから、せっかくこの放課後こども教室立ち上げたわけですから、ここをしっかりとみんなで育てるところで、つなげていくとよいのではないかといいお話になりました。以上です。</p>
<p>酒井学校教育課主幹</p>	<p>B グループ発表</p> <p>B グループはですね、次の話題として ICT の活用について話し合いをさせていただきました。まず学校の現状として、小学校、中学校に関しては、かなり1人1台タブレットの方も使いこなしているかなと。高校の方もかなり浸透してきているようで、活用がされていると。中学校に関してはですね、さらにそのタブレットを使いこなすことによって、こどもたちに配るプリントが少なくなったことでペーパーレスにも繋がっている。また、仕事の方も効率化されてきているという、そういった効果も現れているという話がありました。課題についてなんですけれども、やはり多く挙げたのはその使い方に関することになります。やはり下手すると、先生たちよりも、子どもたちの方が操作には長けていて、どうしても先生たちの見えないところを掻い潜っていくという現状もある中で、やはり使い方については、指導していかなくちゃいけないなど。高校に関しては、もちろん小中学校も行っているんですけども、入学当初に、情報モラルの話を警察外部機関に委託してやってもらっているという話題もあります。それからその情報モラルの育成に関しては、子どもだけじゃなくって、保護者にもしていかなくちゃいけないという話題にもなりました。やっぱり使うのは子どもですけども、それをしっかりと管理するのは保護者にも責任があるという点では必要なことかなという話になりました。確かにその ICT の活用に関しては、いろいろな危険もあるんですけども、例えば、車ができてから、これだけ乗りこなすようになるまでに何十年もかかっているのに、タブレットがまだ導入されてから数年、それこそこれからさらに使い方に関しては、よ</p>

	<p>り一層広がっていくっていうものだというふうに考えてみると、失敗から学ぶことも大切なんじゃないかと。ここは非常に難しいですけども、失敗が失敗で済まないこともあると思うが、そのコントロールをしっかりしていかなきゃいけないのかなというふうに思いました。以上です。</p>
<p>事務局・多治見</p>	<p>Cグループ発表</p> <p>Cグループです。先ほどの五感を使ってもらおうというところに繋がってくるんですけども、学識経験者の中山先生からお話があった通り、資料館の在り方についても、各種体験活動ができるような施設になっていって欲しいという思いが書かれていました。話題になったのは、今ある場所だとなかなか行きづらい雰囲気のところになっていて、ちょっと狭いなあというところもあったりするので、ぜひ北地区、黒笹から福谷あたりに、そういった施設ができてくるといいのではないかと。北地区は歴史的にも魅力的な場所だから、そんな場所なるといいのではないかという意見が出されました。その時にはぜひ、市民の声も聞きながら、どんなものがいいか考えていくって話になったんですけども、ぜひ市民っていうだけじゃなくともう少しこういういろんな立場の、例えばこどもたちから意見聞くとか、もっといろんな人たちから意見を聞いて決めていくといいのではないかという意見も出ています。それから五感を使ってということと、三好中学校が行っている家庭科の授業ですけども、未就園児との触れ合いということで、活動を行ったということがありました。中学生も未就園児たちを目の前にした時には触れあい方という面ですごくいい経験になっていたし、実際に体験して、触れるという体験は学びになるという意見が出されました。ただそういった時に、例えばお手伝いをする方がどうしても必要になってくるので、人材確保は、とても課題になってくるかなという話になっています。ただ、その時に地域コーディネーターの方の力を今回借りて行ったってことでもありましたので、コミュニティ・スクールを進めるにあたって、コーディネーターの力が大事になってくるのかなという意見になっています。最後、家庭教育っていう部分で、なかなか位置付けがはっきりとされていない部分があるので、今後見直しに向けて、その中身を見直していくということであったり、保護者が何を求めているのかということもあったりして、考えていけるといいかなと。誰がどこでどのように支援していくのが明確になるといいという、そんな話になりました。特に保護者の姿を見て、こどもたちが育っていくので、保護者の働く姿を実際に見てもらえる機会をつくるなど、考えていけるとよいのではないかという意見がありました。以上です。</p>

大村委員長	<p>それでは事務局の方自席にお戻りください。</p> <p>今からの時間ですけども、ちょうどこの春に任期が切れるということで、委員のお1人ずつですね、今までの協議、この委員会参加してのご感想、ご意見をいただきたいということで、順番に少しお話をいただけたらと思います。</p>
渡辺委員	<p>他のグループのお話も聞いて、大変参考にあったのですが、私たちのグループではやっぱりどうやって地域と繋がっていくかというところが大きなテーマになったのかなというふうに思いました。あと、みんなで育てるっていうイメージは、何となく漠然と私は黒笹に住んでいるので黒笹のこどもたちが、全然知らないおじいちゃんとかおばあちゃんにも挨拶をしっかりしてくれるとか、あと緑色のピブスを起きた、地域の方がずっと回って、いろんな人と挨拶しながら交流しているという姿を見て、これもきっとその一つなんだろうなということを思いますが、どんどん少子化になっていて、家から出ないっていう高齢者の方も増えていくとなると、いろんな仕掛けが必要になるのかなと。その一つで、やっぱり放課後こども教室っていうのは大きいのかなと思います。地域でもうリタイヤされて時間がある方で力を貸してくれる方がいたり、あとここにも書いてありますように、地域の中学校、高校、スポーツ科学科の高校生の方達は皆さん、コミュニケーション能力も高く、いろんなスポーツのことも知っているので、今、個別支援が必要なお子さんもととも増えています、その方とのコミュニケーションもきっととってくれるんじゃないかなということと、そういう方がやっぱり地域にいるということを私たち知っていく必要があるのかなということを改めて思いました。</p>
大地委員	<p>私は、社会教育委員としてこの会に出させていただいていますので、その立場のことも踏まえてお話をしたいと思います。社会教育委員の大会とかに出ると、家庭教育という部門があるんですね。家庭教育というのは一体何だろうということを考えて先ほども、グループの時も話したんですけども、家庭教育っていうことが、余りにも広い範囲の言葉で使われ過ぎていて家庭教育で済まされてしまう面がたくさんあるかなということを感じています。今回の20のプランを分けるにあたって例え本日要項の1ページ目のグループ分けのところも、子育て支援、学校教育、生涯学習・社会教育・地域連携となっているときに、家庭教育は一体どこでどのようにということを強く感じていて今日出させていただきましたということが一つと、この会に出させていただいて、本当に今日も具体的な姿、こどもたちのこんなふうな活動をしているとか、具体的な姿を聞かせていただくと、やっぱり学校教育とか、学校でされている活動はいいなということを感じます。具体的にそのように、子どもたちがしていることはすごく大切なんですけども、これから先にまたプランを考えていくにあたって、先ほど出ましたICTもすごく重要な要素になってくると思います。それがないとこれからは考えられないし、それを入れていくということで、すごく大切な要素になるなということを感じます。ただちょっとこの</p>

	<p>間、大学生と意見や考えを聞く機会がありまして、大学生の中にも、ICTは素晴らしい、すごくいいという絶対肯定の人とそうではなくて、実際に行くこと、豊かな心を作って体験してということが大事だっていう意見をもっている大学生もいました。それを両方聞いていて、ICTなくしてはこれから考えられないし、でもやっぱり実際に行く五感を使って感じるというところも、なくなってほしくないと思うところでありまして、その両方の面をしっかりと考えていかななくてはいけないのかなって上手に活用し、プラスその他の面でどうやっていっていかってということもこれから考えていく必要があるのかなということ今日感じています。以上です。</p>
<p>平尾委員</p>	<p>三好高校の平尾でございます。この2年間です委員ということでいろいろ皆さんのご意見をいただいたり、あるいは高校の現状を説明したりということで、非常に貴重な時間をいただきましたとっております。やはり学校教育だけでなくですね、子育ての段階、そして卒業後の社会出てからのいろんな生涯学習ですとか、社会教育についてもこうした一連の流れの中で、いろんな対策等を知れたのは非常にありがたかったなとっております。今回こうして勉強させていただいたことをまた本校の活動にも生かして参りたいと思います。せっかくのご縁ですので何かありましたらいつでも三好高校へ声をかけていただければと思います。ありがとうございました。</p>
<p>宮田委員</p>	<p>事前にいただいた資料から、3点ですけど、自己肯定感という言葉が今日飛び交いました。自分とはにかく子どもたちに毎日元気に学校に来て欲しいというのが一番の願いです。その中で、普段は不登校なのに、突然来るときがあるんですね。要素としては、例えば学校行事で修学旅行、自然教室実行委員とか、合唱コンクール、体育祭があるとその中でこういう競技があって一緒に練習できる。本当に行事が精選される中で授業にはない、不思議な力があるなということで、本当にこういうものも大切にしたいなということ普段から思っております。二つ目です。コミュニティ・スクールですけど、本校だと、地域コーディネーターの方が大変力がありまして、教師がこんな授業をやってみたいなとか。こどもの実態からこういうことをやってみたらどうかなあということで、こちらが聞いたりすると、こういうのはどうかなあということで、どんどん紹介いただいております。だから、本当に今年、昨年とこどもが、教員が本当に得をしているなと感じているのでコーディネーターの方に感謝しております。三つ目に、部活動の地域移行ということで、これが進んでいる中で南中には柔道部がないんです。それが今年北中に行くことによって、県大会の場を踏ませていただく、そんなような活躍の場もいただきました。ただ、よく学校の方で問題になるのですが、教員は3時間やってもこれすいません。お金のことになってしまうんですけど、3時間やっても2700円、地域の部活動指導員だと1時間で1600円。本当にささいなことですけど、そういうのが今後も、令和8年度の実施ということで、ちっ</p>

	<p>ちやなことではないんですけど、こういうものがモチベーションの低下に繋がらないかなというのは危惧しております。ありがとうございました。</p>
<p>春山委員</p>	<p>三好丘小学校の春山でございます。小学校代表してお話させていただきますが、本校の子たちは地域の大人が本当に大好きで、アジサイを境川のところで一緒に植えたりだとか、それから校外学習で、いきいきクラブの方が手を引いて出ていただけたりだとか、本当に何々さんって、こどもが手を振る姿がいっぱいこれ、本校だけではなくて、市内のどの小学校もそのような活動をやっているということを、聞いております。本当にふるさとみよしっていうことをこどもたちが、地域の方との繋がりの中で、そういうことを感じさせる姿をたくさん見せてもらいました。体系別のいろんな施策があって、こういうこどもが今育っているんだなということを感じております。また、ぜひ地域とともにある学校、全小中学校で作っていただけたらなと思っておりますので、またよろしく願いいたします。以上です。</p>
<p>山田委員</p>	<p>今年度1年間、この会議に参加させていただいて、一番思ったことが、本校も今年度からコミュニティ・スクールを立ち上げまして、地域にこういうことに困っていますということを言ってみると、たくさんの方が、こういう方法があるよとか、こんなことできるよということで評価してくれる人がたくさんいるってことがわかりました。みよし市も、こうやって教育活動に丁寧に取り組んでくださっていて、他市町の人という話をしていても、本当に丁寧にやっていただいているなっていうのは、よくわかります。それがさらに広く市民に伝わっていくと、この取組のよさがさらに広がってまた協力していただける方が、増えるのかなというに思いました。以上です。</p>
<p>林委員</p>	<p>みどり保育園林です。ありがとうございました。今年度、この会に参加させていただいて私自身すごく勉強させていただいたなと思っています。本当にみんなで育てるところで地域を巻き込むということ。小学校に行く前に園で、本当に今、地域との関わりがあまりない状態になっているので、これからどのように地域にアプローチしながら、地域との関わりをもちながら、小学校に行く前にこどもたち、地域と関わりをもって就学ができるようにしていけないといけないなっていうのを強く感じました。また、Cグループさんで五感を育てることが大切っていうようなお話も今日出ていましたけど、やっぱり保育園でも、いろいろなこどもたちが経験をして、それで自分で考えて、失敗をしながら、もう1回やってみようっていうところを今、大切に保育に取り組んでいます。やっぱりそういうことは幼児期しかできないことなのかなあと。小学校に行くとやっぱりICT教育というところも入ってくるのでこの幼児期の教育で大切にしなければいけないところを改めて感じさせていただきました。また皆さんの意見を聞きながら保育の方にも取り入れていきたいなと思っています。ありがとうございました。</p>

成瀬委員	<p>成瀬です。私は今年1年間ということで、勉強になる時間を過ごさせていただきました。私自身3人のこどもの母でございますが、普段の生活はとても戸惑うこともいっぱいありますし、とても皆様にお見せできるような生活ではないんですけれども、地域の方たちと一緒に子育てをして、これからも行きたいなど改めて思いました。ありがとうございました。</p>
宮崎委員	<p>父母の会、保育園の会の会長の宮崎です。今年度、このような立場でこの会に参加をさせていただいて、私自身もみよしで育て今実際にみよしで子育てをしているということで、子育て世代の目線ということで、今回と前回、この会に参加をさせていただきました。前回もそうですけど、自分はみよしが好きでみよしで子育てしたいということで、今実際にみよしでやっているわけですけど、自分のこどもも同じような思いをもって欲しいなっていう気持ちがずっとあります。もっと言えば、みよしの外から来られた方も同じような思いをもっていたけるといいなっていう思いがあります。ただ、実際自分がこの会に参加してみると、みよし市がやってくださっている取組、施策を全然僕自身わかってなかったなっていうのが今回と前回の会議、参加して感じたところではあるので、私自身の個人の力は大したものではないので、まずは自分の周りの友達だったりとか、ママ友・パパ友だったりとかに、みよしはこんなことやっているんだよということを紹介して、広めていけたらなっていうふうに思っております。非常に自分自身も勉強になった会でした。ありがとうございました。以上です。</p>
富樫委員	<p>みよし市文化協会からやってきております。富樫と申します。私もこの会議でたくさん学ばせていただきました。本当にいろんな立場の先生方がいらっしゃって、私の心の中がすごく豊かになるというか、私の力のなさで悩んだこともあります。とても自分自身、充実した日々を過ごさせていただいているなと思います。今、宮崎さんもおっしゃられたように、この会議を通してというか、みよし市が私はよそから嫁に来た身分ですが、みよし市はいい街だと本当に思います。だから、こういう取組があるということを知らない人がいっぱいいると思いますので。やはり一生懸命みよしのことを考えて、市の方と先生、学校、地域の方と協力してやっているというのを市民の方に知っていただいて、それを家庭教育に生かしてもらえると、すばらしくなってくじゃないかなと思いました。以上です。</p>
鈴木睦子委員	<p>ありがとうございました。文化財保護委員会から来ました鈴木です。私も3人のこどもの子育てを終えて、またその子どもたちも子どもをここでまた運よく育てております。どの子どもも1回外に出たんですが、みよしは本当に他の地域と比べて住みよいと言って戻ってきました。私もそのことはすごい実感しています。学校は、学習だけでなく、人との関わり方だけでなく、本当に大切な人との交わり方を教えてくれる場だと思います。いろんな失敗をしても、そこに友達がいるとか、いろんな</p>

<p>鈴木康之委員</p>	<p>経験ができる、本当に大切な場だと思えます。それで、資料館の在り方検討会の話も進んでいまして、いろんな古いことについても、自分たちが学べる場所となるように、いろんな人の話を聞きながら進めていってほしいと期待しております。以上です。</p> <p>スポーツ推進委員の鈴木です。この教育という大きな話の中で何かスポーツ推進委員というかスポーツのことが、何か小さいことかなあとと思って、多少なりともお役に立てればと思ってありますがちょっとこの場でお話しするのは適当なのかどうか分からないのですが、20年ほど前に長野県で私、信号のない交差点で止まって、小学生の女の子1人だけ渡って向こうへ行ってから、振り向いて90度頭を下げ、それを見て、未だにまだそのことが頭にあるから離れないんですけど、学校で教育されたのか、親がそうやって、こうしなさいと言ったのかちょっと分からないんですけど、よくあれだけ頭を下げて、ありがとうございますと心から言えるような、そんなこどもたちがみよしでも育つとありがたいなと。ありがとうございました。</p>
<p>内田委員</p>	<p>今までみよし市教育振興基本計画推進委員として、この図書館協議会の代表として出させていただいて本当にありがとうございました。私自身は個人的にみよしの小学校、中学校と長年にわたり読み聞かせのボランティアをさせていただき、また図書館でも読み聞かせのグループで、読み聞かせをさせていただいているのですが、どんどん認識させていただいて、いよいよ今年度というか、この前12月ですね、今全小学校・中学校の読み聞かせのグループ、そして、おはなし会図書館のお話からグループが市から感謝状をいただき、皆さんすごくやる気が出たと感動して、また力にしたいと言っておりましたので、皆さんにお伝えします。本当にありがとうございました。そして、今年は2月に、中学生の読み聞かせのボランティアをしているボランティアさんのために、講座を開いていただき、その内容がずっと求めていた読み物へ移っていくための読み聞かせの時間にするというこの講座だったので、これから少しずつその講座を聞いたボランティアさん多数いましたので、中学校のボランティアさんが集まってくさったので、そこでこれから変わっていくんじゃないかなとすごく期待しています。もう絵本だけではなく、読み物に向かっていく。ちょっと読み物の中の全部読めないで、一部分を紹介して、その本を読みたいなっていう気持ちになってもらったり、また中学生や大人にも、とても読みごたえのある絵本を紹介してくれたりとかの機会が増えるのを期待しています。またそれを1回だけではなく、連続して、これからはずっと定期的にやっていただけたらありがたいなと思ってます。本を好きになってくれる子を育てるっていうボランティアを長年させていただいて、今後はやっぱりここにもあります自己肯定感を高めるっていうことにもとても貢献しますし、また自然の美しさを感じて幸せを見出していく力を得るっていう、そういう大きな力を本は秘めていますので、そう</p>

いう本を紹介できる力を持ったボランティアさんを助けていただけると、とてもありがたいと思って、私も日々精進して、勉強していきたいと思っています。ありがとうございました。

近藤委員

教育委員の近藤です。この会に参加させていただいて本当に勉強させていただきました。自分は教育委員としてこれ4年目になっているんですけども、もう一つ別の委員会でみよし市総合計画、30年後、または10年後にどういうみよし市にしていこうかという委員会とある委員さんが、よそのメーカーの統計だったんですけども、住みよい町ではみよし市はトップだったんですけども。ずっとみよしに住み続けたいかというときは、実はトップじゃなくなっちゃうんですね。総合計画の方は税金をどうやって皆さんが住みよいまちにするかという観点なのですが、ずっとここで骨をうずめるコミュニティとして感じているかという、実は感じていない。そのギャップはどこで埋めたらいいのかなっていうと、実はこの会なんです。ふるさとみよしをどう一人一人の子供が感じていくか、今始まっているコミュニティ・スクールとか、いろんな地域で中学校を中心としたコミュニティの会議があるんですけども、そういうところで、こどもが、関わって、自分たちの見直し、みんなと一緒に作り上げていくみよしというのを体感していくと。多分今度ずっと進んでいく、自分たちのみよし市になっていくんじゃないかなと。実際は、住みよいみよしにしていってというのは実は教育委員会のこの部会の方が実はベースでそういう人づくりをしていくということなので、私はそういう観点でこの部会にかかわらせていただき、勉強させていただきましたということでお礼を申し上げなきゃいけないんですけども、やっぱりこういう部会に入っていないとやっぱり勉強できないというか自分が知ることができなかったのも、本当にみよしに長いこと住んでいましたけども、こういう観点で勉強させていただいたというのは、本当にありがたいことだなと思って感謝しかありません。ありがとうございました。

大村委員長

最後に私の方からも一言申し上げたいと思います。今委員さんの皆さんのご意見ご感想をお聞きしてですね、皆さんどういう感想をもたれたかなと思うんですが、私としては非常にみずみずしいといいますかね、皆さんの言葉がとても心地よく、そしてなるほどなと思って共感しながら聞かせていただくことができました。これもこの委員会が、この教育振興計画を通して、こうしたグループ協議を重ねて、一人一人の意見を受けとめながら議論を進めてきたということが大きいのかなと思っていて、それはいい会がつくれてきたのかもしれないというふうに思っているわけです。今日いろいろ議論をしていただきましたけども、どちらかというと、この委員会はこどもの教育について、語ってきたなというふうな思いがあります。それはそれとして大事なのですが、最後近藤委員さん言われたような、住み続けたいかというところは実は大人の生き方の問題なのですよね。私はその社会教育が専門なんですけども、今、人生100年時代というふうなことが言われてもう10年ぐらいになるのです

が、今の子どもたちが大人になる頃には、もう半分以上の人たちは100歳ぐらいまで生きる、そういう時代になってきたんだということ、しかしそれはライフサイクルでいくとどういうことかという、かつては子どもを育てて、そして60ぐらいまで働くと、大体自分の人生は終わり、あとは余生だ、そういった人生だったわけですが、今はそうではないですね。子どもが1人前になって育って行って、それからまだ30年とか40年とか人生は続くわけですね。だから、子育てではない。あるいは仕事を中心の生活でもない。そういう人生が30年40年あるというのは一体どういうことだろうか。今まで日本、あるいはその世界もそうですけども、人類があんまり経験してこなかったその生活スタイルにもう足を踏み込んでいるわけですね。ですから、その仕事の面にしても今までずっとやってきた仕事をこれからまた続けていくのか、あるいは違う仕事に挑戦するのか、仕事に挑戦するためには、やっぱり勉強したり、学習の場が必要になってきますよね。あるいはこの子育てにしても、自分の子育てが終わったから終わりか。いや、もっとほかの子どもたちと触れ合いたい、育てたい、何かやりたいというときには、もう少し違った子どもとのつき合い方が、始まらなければいけないのですが、そのためにはやっぱり学習が必要だったりします。そういった大人たちが自分の人生をウェルビーイングという言葉が出てきましたが、自分の幸せを感じて生活満足度を高めて、充実した生き方をするためには、実はその社会教育の分野がとても大事で、大人の学び直し、そして今ある生活をどうやって豊かにしていったらいいかということ、みんなで考え合っていく場所が、大人たちにとってもあるのかどうかということが問われているんだと思います。そういった大人の生き方を見て、子どもたちは、ここの地域は、大人がすてきなというふうに思ってくれて、ここで住みたい、ここに自分の人生をかけたいというふうに思ってくれるのかなというふうにも思います。そういった意味では、来年度になるかもしれませんが、子どもの教育という問題と、大人の学びというものをつなげて、大人がどう生きていくのかということも、ぜひこの会で議論していただけたらいいかなというふうに思います。一言付け加えますと、今日自己肯定感の問題も出ました。少し遊び場の話もさせていただいたのですが、子どもにとって遊びってのはとっても大事ですね。これは幼児教育の方はよく知ってらっしゃいますけども、小学校以上の学校の場合だとあまり遊びってというのは大事にしてこなかったんじゃないかという思いが少しあります。しかし、特に小学校はそうですね。放課後とか、あるいは休み時間で遊ぶ。そういう姿がとても生き生きしているはずなんです。遊びというのは、子どもの主体性が一番発揮できる。つまり育つ、そういう時間なんです。何かをやりなさいというふうに言われたのではなくて自分がやりたいことをやりたいだけやっていく。その中で自分の価値感であったり、人との繋がり方であったり、そして自分の生き方というものを見つけていくのがその遊びの時間であるはずなので、もっと私たちは子どもの遊びを大事にしないといけないし、遊べる場所、遊べる時間というものを、保障

	<p>してあげないといけないなというふうに思っています。それは小学生だけではなく、本当は中学生や高校生、大学生にとっても、同じなんじゃないかというふうに思っていて、そういった時間が自分を育てて、自分の人生の自分の価値感というものを育てていく、そういった場所・時間になるのではないかなというふうに思っています。そういう意味では、実は大人にとっての遊びって、とても大事だということにもなるかと思います。そういったこどもから大人を通してですね、このみよし市の中で、ウェルビーイングですね。幸せに、人と繋がりながら、そしていろんなところでやりがいを感じる。そういった地域を作っていくということ、この教育振興計画の中で、ぜひ目指していただきたいなというふうに思いました。市民の皆さんと一緒に計画をよりよくしていくと、そのための議論をしていただく場がこの委員会だと思いますので、また、今後ですね、計画の進行、そしてその計画をよりよくしていくそういった営みをですね、皆さんと一緒にしていきたいというふうに思います。準備をしていただいた事務局の皆さんにも感謝申し上げたいと思います。それでは、協議が終わりましたので、進行事務局にお返しいたします。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>大村先生どうもありがとうございました。 今後の予定について事務局よりご説明します。</p>
<p>事務局・多治見</p>	<p>要項の6その他にも載せさせていただいておりますが、令和8年度の策定に向けて、来年度は2回から4回に増やして、教育振興計画推進委員会を行っていく予定であります。また、温かく見守っていただけたらと思います。以上です。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>では最後にお礼の言葉を、教育部富田泰隆が申し上げます。</p>
<p>富田教育部長</p>	<p>教育部長お礼の挨拶</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>以上をもちまして、第2回みよし市教育振興基本計画推進委員会を終了させていただきます。皆様ご起立をお願いします。ありがとうございました。御着席ください。</p>